

志引遺跡・柏木遺跡B地区  
旧石器検証調査報告書

平成15年3月

多賀城市教育委員会



志引遺跡・柏木遺跡B地区  
旧石器検証調査報告書

平成15年3月

多賀城市教育委員会



## 序 文

志引遺跡及び柏木遺跡は、発掘調査によって前・中期旧石器時代の遺跡であることが確認された数少ない遺跡の一つとして知られていました。この調査成果により、本市の歴史が一気に10万年前に遡ることになり、これまで市埋蔵文化財調査センター常設展示室や市内の文化財を紹介するパンフレット等に紹介してきたところです。

ところが、平成12年11月5日に東北旧石器文化研究所前副理事長が上高森遺跡において旧石器発掘を「ねつ造」していたことが発覚し、考古学界は勿論のこと社会全体に及ぼす大問題となりました。

その後、この「ねつ造」事件の波は大きく拡大し計り知れない影響を与えています。そして、ついには「国指定史跡 座敷乱木遺跡」が指定解除されるという前代未聞の事件へと発展しております。

このような状況のなか、志引・柏木遺跡については、前副理事長が遺跡の発見と調査に関わっていたことから、本市教育委員会は、当分の間常設展示室の旧石器コーナーの閉鎖と市内小学校の副読本の記述削除を行いました。しかしながら、これはあくまでも一時的な措置であり、根本的な問題解決にはならないことは明らかです。このため、旧石器時代の遺跡であるか否か真実を伝えることが教育の本務であるとの前提に立ち、市独自で旧石器検証調査を実施することにいたしました。

検証調査の結果は、誠に残念ながらほとんどの石器に不自然な痕跡が認められ、人為的に埋められたものであることが確認されました。本市では、この結果を真摯に受けとめるとともに、今後このようなことが起こらないよう文化財行政の改善に努め、より一層の向上を図っていく所存であります。

本書は、石器の検討結果をまとめたものであり、旧石器ねつ造の検証あるいは文化財行政の資料として広く活用していただければ幸いです。

最後に、この調査にあたって多大のご協力、ご指導をいただいた関係各位に対し心から感謝申し上げます。

平成15年3月

多賀城市教育委員会

教育長 櫻井茂男

# 例　　言

1. 本書は、平成14年度国庫補助事業として実施した、志引遺跡・柏木遺跡B地区の旧石器検証調査報告書である。
2. 本調査は、多賀城市教育委員会が主体となり、多賀城市埋蔵文化財調査センターが担当した。
3. 本書の執筆は高倉敏明、相澤清利、相澤正信の協議のもとに、I・Vを高倉、III 1・2・3を相澤(正)、II・III 4・IVを相澤(清)が担当した。また、編集は相澤(清)、相澤(正)が行った。
4. 本報告にあたり、「柏木遺跡B地区」の表記は、すべて「柏木遺跡」と略記した。
5. 報告書に掲載している実測図、図版等は、多賀城市文化財調査報告書第6集『志引遺跡』、同第36集『柏木遺跡B地区』を改変し使用した。
6. 本書の石器観察表に記載した器種分類は、『摺祓遺跡』(須田ほか 1990) の分類に準拠した。
7. 検証作業及び本書の作成に際し、下記の方々および機関からご指導、ご協力を賜った。(敬称略)  
相原淳一、阿子島香、吾妻俊典、荒井 格、石井 淳、井田秀和、井上雅孝、河合信和、金子直行、鎌田俊昭、梶原 洋、菊池強一、木村 高、佐川正敏、佐久間光平、佐々木和博、佐々木洋治、佐藤 剛、佐藤信行、佐藤宏之、渋谷孝雄、須田富士子、須田良平、砂田佳宏、高木 晃、高橋誠明、竹花和晴、辻 秀人、中川和哉、藤沢 敦、藤野次史、麻柄一志、松藤和人、矢島國雄、柳沢和明、柳田俊雄、山田晃弘、山田しよう  
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館、東北歴史博物館、日本考古学協会、宮城県考古学会、文化庁、東北旧石器文化研究所、大和町教育委員会、仙台市教育委員会、山形県教育委員会、東北学院大学、東北福祉大学、東北大、東京都立大学、宮城県教育庁文化財保護課、高畠町教育委員会、安達町教育委員会、尾花沢市教育委員会、埼玉県教育委員会
8. 本調査に関わる諸記録及び出土遺物は、一括して多賀城市教育委員会が保管している。

# 目　　次

序 文	
例　　言・目　　次	
I. 検証調査に至る経緯と経過	1
1. 旧石器「ねつ造」問題に対する対応と経過	1
2. 検証調査の経過	2
II. 志引遺跡・柏木遺跡の概要	4
1. 志引遺跡	4
2. 柏木遺跡	4
III. 検証結果	5
1. 石器検証作業の方法	5
2. 石器検証結果	7
3. 小　　結	8
4. 繩文草創期とされた土器について	15
IV. 発掘調査記録からの検討	16
1. 調査日誌からの検討	16
2. 石器の出土状況からの検討	18
V. まとめ	21

## 挿図目次

### 凡例

第1図	志引・柏木遺跡位置図	5
第2図	志引遺跡各層出土石器分布図	19
第3図	柏木遺跡遺構平面図（縄文時代）・7層上面石器分布図	20
第4図	志引遺跡3層上面第1遺物集中地点出土遺物(1)	43
第5図	志引遺跡3層上面第1遺物集中地点出土石器(2)	44
第6図	志引遺跡3層上面第1遺物集中地点出土石器(3)	45
第7図	志引遺跡溝I埋土最上層出土遺物(1)	46
第8図	志引遺跡溝I埋土最上層出土石器(2)・表土(80)出土石器	47
第9図	志引遺跡4層上面出土石器	48
第10図	志引遺跡7層上面第4遺物集中地点出土石器(98～103)	49
	8層上面第6遺物集中地点出土石器(104～113)	49
第11図	志引遺跡8層上面第5遺物集中地点出土石器(1)	50
第12図	志引遺跡8層上面第5遺物集中地点出土石器(2)	51
第13図	志引遺跡9層上面第7遺物集中地点出土石器(140～142)	52
	9層上面第8遺物集中地点出土石器(143～150)	52
第14図	志引遺跡道路断面採取遺物	53
第15図	志引遺跡9層上面第7遺物集中地点出土	54
第16図	志引遺跡9層上面第7・8遺物集中地点石器	55
第17図	柏木遺跡7層上面第1遺物集中地点出土石器(1)	56
第18図	柏木遺跡7層上面第1遺物集中地点出土石器(2)	57
第19図	柏木遺跡7層上面第1遺物集中地点出土石器(3)	58
第20図	柏木遺跡7層上面第1遺物集中地点出土石器(4)	59
第21図	柏木遺跡7層上面第2遺物集中地点出土石器	60
第22図	柏木遺跡7層上面第3遺物集中地点出土石器(1)	61
第23図	柏木遺跡7層上面第3遺物集中地点出土石器(2)上2段	62
	7層上面第4遺物集中地点出土石器(67～72)	62
第24図	柏木遺跡7層上面第5遺物集中地点出土石器(1)	63
第25図	柏木遺跡7層上面第5遺物集中地点出土石器ほか(2)	64
第26図	柏木遺跡7層上面第5遺物集中地点出土石器(3)	65
第27図	柏木遺跡7層上面第5遺物集中地点出土石器ほか(4)	66
第28図	柏木遺跡各地区出土の石器(1)	67
第29図	柏木遺跡各地区出土の石器(2)	68
第30図	柏木遺跡各地区出土の石器(3)	69
第31図	柏木遺跡土壤1出土石器(1)	70

## 表 目 次

表1 志引遺跡石器検証項目別グラフ(1)	9
表2 志引遺跡石器検証項目別グラフ(2)	10
表3 柏木遺跡石器検証項目別グラフ(1)	11
表4 柏木遺跡石器検証項目別グラフ(2)	12
表5 柏木遺跡石器検証項目別グラフ(3)	13
表6 志引遺跡の調査暦	17
表7 柏木遺跡の調査暦	17
表8 志引遺跡石器観察表(1)	23
表9 志引遺跡石器観察表(2)	24
表10 志引遺跡石器観察表(3)	25
表11 志引遺跡石器観察表(4)	26
表12 志引遺跡石器観察表(5)	27
表13 志引遺跡石器観察表(6)	28
表14 志引遺跡石器観察表(7)	29
表15 柏木遺跡石器観察表(1)	30
表16 柏木遺跡石器観察表(2)	31
表17 柏木遺跡石器観察表(3)	32
表18 柏木遺跡石器観察表(4)	33
表19 柏木遺跡石器観察表(5)	34
表20 柏木遺跡石器観察表(6)	35
表21 柏木遺跡石器観察表(7)	36
表22 柏木遺跡石器観察表(8)	37
表23 柏木遺跡石器観察表(9)	38

## 写 真 目 次

写真1 石器にみられる様々な痕跡(1)	39
写真2 石器にみられる様々な痕跡(2)	40
写真3 志引・柏木遺跡の石器出土状況	41

# I. 検証調査に至る経緯と経過

## 1. 旧石器発掘「ねつ造」問題に対する対応と経緯

当市に所在する旧石器時代の遺跡である志引遺跡及び柏木遺跡は、東北旧石器文化研究所の藤村新一前副理事長による旧石器発掘「ねつ造」問題に関連して再検討する必要性が生じたことから、今年度市教育委員会独自で検証調査に踏み切った。

はじめに、本問題に対する市教育委員会の対応と経緯について述べることとする。

志引遺跡は、昭和58年に市史編纂事業の一環として発掘調査が行われた。調査主体は多賀城市及び市教育委員会、調査担当者は市史編纂執筆委員であった鎌田俊昭氏である。旧石器発見の経緯については、鎌田・藤村両氏による遺跡踏査によって道路断面から石器を採取したとされている。また、発掘調査においても藤村氏が数日調査に参加していた。

柏木遺跡は、昭和62年に市教委員会が宅地造成事業に伴う調査として丘陵斜面の古代製鉄遺跡の発掘調査（A地区）を行った際に、丘陵尾根上から石器が発見されたため鎌田俊昭氏に調査を依頼して行われたものである（B地区）。旧石器は、鎌田・藤村両氏によって行われた予備調査でトレーニング断面から石器が出土したと記録されている。発掘調査においても藤村氏は数日調査に参加していた。

平成12年11月5日、上高森遺跡第6次調査で旧石器発掘「ねつ造」が発覚した。その直後の12月市議会において、藤村氏が調査に関わった志引・柏木遺跡について、市教育委員会は「ねつ造が行われたとは考えられない」との調査結果をまとめ、報告していた。

平成13年1月9日、日本考古学協会会長及び前・中期旧石器問題調査特別委員会準備会委員長名で提出されていた旧石器関連遺跡に対する調査依頼文書（平成12年12月25日付）に対し「志引・柏木遺跡とともに藤村氏の関与は薄く、発掘調査の結果を支持し再検証・再調査を行う考えはない。」との回答文書を提出した。

同年5月、日本考古学協会と宮城県考古学会は、それぞれ特別委員会の設置を表明し、ねつ造問題に考古学界としての本格的な対応が始まった。さらに、福島や山形、埼玉などで遺跡の検証調査が開始された。そして、宮城県でもねつ造が発覚した上高森遺跡の検証調査に向けて、県考古学会が主体となって合同調査団を結成して取り組むことを決めた。その矢先、藤村氏がねつ造を告白したとの報道が流れ、10月7日の日本考古学協会盛岡大会で藤村氏が告白したとされるねつ造遺跡が公表された。ねつ造遺跡は、宮城県内14遺跡をはじめ1道6県の42遺跡に及んでいた。11月9日、上高森遺跡調査団は、再発掘調査を行った調査結果について、「ねつ造された石器を発見した」「遺跡の証拠はない」と発表した。

このような一連の状況変化は、学界は勿論のこと社会や教育現場にも混乱を与えていていることから、当市としても改めて志引・柏木遺跡の取扱いについて再検討する必要性が生じてきた。その第1の要因は、両遺跡ともに藤村氏が関わっていること、第2に告白した遺跡の中に昭和56年に調査された座敷乱木遺跡3次調査が含まれており、志引遺跡の調査以前からねつ造行為が行われていたと思われるうこと、さらに、ねつ造された遺跡は、広がる可能性が考えられており、考古学界では前・中期旧石器は白紙に戻して新たに発掘資料を積み上げていくべきであるとする意見が大勢を占めていること、などである。

同年11月15日、市教育委員会内部で協議を行い、志引・柏木遺跡の旧石器については、当分の間歴史資

料として使用することを控えるべきであるとの結論に達したことから、埋蔵文化財調査センター常設展示室の旧石器コーナーを閉鎖すること、小学校の地域学習副読本に記載していた「旧石器時代の多賀城一志引・柏木遺跡」を削除することとした。また、現在市有地として現状を保っている志引遺跡については、平成14年度中に再調査を行うことを決めた。

平成14年1月16日、日本考古学協会会長、同前・中期旧石器問題調査研究特別委員会委員長名で提出されていた、藤村新一元会員による遺跡捏造告白に関する調査依頼文書（平成13年12月10日付）に対し、上記の内容で回答している。

同年5月13日、志引・柏木遺跡の取扱いについて改めて検証計画に関する協議を行い、両遺跡の石器を検証した上で志引遺跡の再発掘調査を10～11月頃に行なうことを申し合わせた。

同年5月18日、宮城県考古学会総会において上高森遺跡検証発掘調査結果が報告され、石器の検証結果も併せて「上高森の石器は学術的に使用しうるものではない。総合的に見るならば、上高森遺跡はその発見段階から前期旧石器時代の遺跡として全面的にねつ造され続けられたものであると判断される。」と発表された。

同年5月26日、日本考古学協会総会において、検証調査を進めてきた前・中期旧石器問題調査研究特別委員会は、藤村氏が関与した30遺跡について「学術資料として扱うことは不可能」との統一見解を発表した。このような学会による学術的な判断を受けて、関係自治体は新たな対応を迫られてきた。

同年5月27日、宮城県は藤村氏が関与したとみられる全ての遺跡について、石器の検証などを行い、遺跡の取扱いを再検討する方針を明らかにした。

同年6月9日、国指定史跡の座敷乱木遺跡の再発掘調査を進めてきた座敷乱木遺跡発掘調査団は、調査結果について現地で説明会を開き「考古学的、地質学的に中期旧石器時代の遺跡であると裏付ける証拠は何一つなかった」と報告し、ねつ造されたと断定した。この調査結果を受けて文化庁は、国指定史跡の指定解除に向けて動き出すことになった。

同年6月14日、市教育委員会は、志引・柏木遺跡について再検証調査を行うことを公表した。検証調査は、市埋蔵文化財調査センターに保管されている両遺跡の石器412点の検証作業を行い、その結果次第で志引遺跡の再発掘を含め本年度中の結論を目指すこととした。

## 2. 検証調査の経過

検証調査は、志引・柏木遺跡出土石器の検証と調査記録類の検討を行い、その後、志引遺跡の再発掘調査を行う計画で開始された。

石器の検証作業は、市埋蔵文化財調査センター職員が主体で行った。この検証結果についてできるだけ主觀を排除し客觀性を持たせるため、さらに、専門的な立場で検討して頂くために日本考古学協会、宮城県考古学会、宮城県教育委員会の協力を得て合同検証作業3回、検証結果の検討会1回を開催した。本検証報告は、検討会を経て指摘された点をさらに再検討してまとめたものである。

検証作業の経過について、以下に簡単に記載する。

6月下旬： 志引遺跡の石器検証作業開始、調査記録類の検討

7月上旬： 座敷乱木遺跡の石器観察（東北歴史博物館）

8月上旬： 志引遺跡石器観察記録作成終了

- 下旬：柏木遺跡の石器検証作業開始、調査記録類の検討
- 9月10日：日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会第4作業部会との合同検証作業
- 9月17日：宮城県教育委員会石器検証部会との合同検証作業
- 10月17日：志引遺跡出土土器の検討のため山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館（高畠町）所蔵資料の調査
- 20日：宮城県教育委員会石器検証部会、宮城県考古学会旧石器発掘「ねつ造」問題特別委員会と合同検証作業
- 31日：東北歴史博物館所蔵の座敷乱木遺跡出土土器の調査
- 11月4日：日本考古学協会、宮城県考古学会との検証調査検討会
- 11日：検証結果のまとめ
- 19日：検証結果を日本考古学協会、宮城県考古学会、宮城県教育委員会に報告
- 26日：記者発表

○検証調査体制及び検討会・合同検証作業参加者

- ・検証調査主体：多賀城市教育委員会（教育長 櫻井茂男）
- ・検証作業担当：多賀城市埋蔵文化財調査センター（所長 高倉敏明）相澤清利、相澤正信
- ・検討協力機関：日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会
  - 宮城県考古学会旧石器発掘「ねつ造」問題特別委員会
  - 宮城県教育委員会石器検証部会
- ・検討会参加者：日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会
  - 佐川正敏（東北学院大学教授）、佐藤宏之（東京大学助教授）、矢島國雄（明治大学教授）
  - 協力者 須田富士子（東北大学大学院生）
  - 宮城県考古学会旧石器発掘「ねつ造」問題特別委員会
    - 阿子島香（東北大教授）、吾妻俊典（多賀城跡調査研究所）、荒井 格（仙台市文化財課）、佐久間光平（宮城県文化財保護課）、佐々木和博（岡南高校教諭）、須田良平（宮城県文化財保護課）、辻 秀人（東北学院大学教授）

合同検証作業参加者

- 日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会第4作業部会
- 砂田佳弘（財団法人かながわ考古学財団）、竹花和晴（北海道教育大学函館分校）、中川和哉（財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）、藤野次史（広島大学）、麻柄一志（魚津市教育委員会）、松藤和人（同志社大学）
- 宮城県考古学会旧石器発掘「ねつ造」問題特別委員会
- 阿子島香、柳田俊雄
- 宮城県教育委員会石器検証部会
- 佐久間光平、柳沢和明、山田晃弘

## II. 志引遺跡・柏木遺跡の概要

### 1. 志引遺跡（宮城県遺跡登録番号：18020）

遺跡の年代 旧石器時代、縄文時代草創期、古代、中世、近世

調査年月日 昭和58年5月23日～6月18日

調査地 宮城県多賀城市東田中二丁目429番地

調査面積 84m<sup>2</sup>

調査主体 多賀城市 多賀城市教育委員会

調査報告書 『志引遺跡』多賀城市文化財調査報告書第6集 昭和59年刊

#### 調査概要

本遺跡は、北東方向から大きく張りだした塩釜丘陵から派生した標高15～19mの舌状台地上に立地する。調査の結果、前・中期旧石器時代から縄文時代草創期までの5枚の文化層から石器178点と土器4点が発見された。地層は10層に分層され、このうち3層、4層、7層、8層、9層上面から石器が出土した。3層上面の石器が縄文時代草創期、4層上面が後期旧石器時代、7層～9層上面が前・中期旧石器時代にそれぞれ位置づけられた。

調査成果は以下のようにまとめられている。

- (1) 多賀城市的歴史が一気に10万年近くも古くなった。
- (2) 前・中期旧石器時代について層位的裏づけを持った石器の変遷が明らかとなった。
- (3) 「前期旧石器存否論争」の決着への一翼を担った。
- (4) 多賀城市周辺でも旧石器時代遺跡が良好に保存されている見通しを得た。

### 2. 柏木遺跡（宮城県遺跡登録番号：18038）

遺跡の年代 旧石器時代、縄文時代晚期、古代

調査年月日 昭和62年10月1日～12月19日

調査地 宮城県多賀城市大代五丁目1番1号他

調査面積 750m<sup>2</sup>

調査主体 多賀城市教育委員会

調査報告書 『柏木遺跡B地区』多賀城市文化財調査報告書第36集 平成6年刊

#### 調査概要

本遺跡は、塩釜方向から大きく西に張りだした塩釜丘陵から派生した標高16～17mの丘陵尾根上に立地する。調査の結果、前・中期旧石器時代の石器124点、縄文時代晚期の遺構・遺物（石器・土器）が発見された。前・中期旧石器時代の石器は、7層上面で5ヶ所に集中して出土した。

調査成果は以下のようにまとめられている。

- (1) 7層上面の石器は、各石器集中地点、小群がそれぞれ自己完結的に相互に重複することなく互いの領域を意識しあっているかのように分布している。
- (2) 柏木遺跡の石器群は、前期と中期の諸特徴を兼ね備えていることから、その境界線前後と考えられる。

- (3) 本遺跡の7層上面と志引遺跡の9層上面は、鮮新世の凝灰岩が風化した赤色粘土層の上面に営まれたもので、双方の石器は近い年代が与えられる。しかし、石材や石器組成に大きな隔たりがあるので、厳密な対比是不可能である。
- (4) 石器製作を示す接合資料や刃部再生等に生じる剥片、チップが全くないことから、本遺跡で認められた石器集中の現象を補給場と考えたい。



第1図 志引・柏木遺跡位置図

### III. 検証結果

#### 1. 石器検証作業の方法

検証作業を開始するにあたり、志引遺跡出土石器178点、柏木遺跡出土石器235点の観察台帳を作成した。志引遺跡では当初178点の石器を対象としていたが、9層上面から出土したうちの14点に酸化鉄の被膜が付着していたため、希塩酸を用いての脱鉄処理が行われていた（第15・16図）。この処理により鉄分や付着土が溶解していたため観察対象から除外した。また、溝Ⅰ底面出土の有舌尖頭器とされた石器1点が紛失し

ていたため、計163点を観察対象とすることとした。石器はデジタルカメラで1点ごとに撮影、実寸で実測図のコピーと共に観察台帳に貼付した。観察項目については日本考古学協会、宮城県考古学会、仙台市教育委員会などの検証調査でねつ造の痕跡を有効に判定する方法として取上げられている以下の8項目を探用し、他の検証調査との共通化を図った。

#### (1) 鉄分の付着

褐鉄鉱には自然要因で発達するものと人工的な要因で発達するものがあり、これらは5つのタイプに分類されている（菊池 2001）。このなかでライン様付着2は、農耕機具との接触により発生する可能性が高いこと、層位的に最上位（耕作土中）に集中することが指摘されている。これらを参考に褐鉄鉱ライン様付着2（以後褐鉄鉱L2）の有無を観察した。さらに、剥離面や自然面などの平坦な部分に直線状に付着したものと褐鉄鉱L2(a)、稜線上や石器の縁辺、凸部などに付着したものと褐鉄鉱L2(c)の2種類に細分類した。また、近年の検証調査や研究によって褐鉄鉱L2とキズ（ガジリ）の成因の相関関係について指摘があり（埼玉県教育委員会 2001他）、これを検討するため褐鉄鉱L2がキズ（ガジリ）の打点付近に観察されるものを褐鉄鉱L2+Gとして集計した。

#### (2) 付着土の種別

付着土はY：黄色土、B：黒色土、D：褐色土の3種類に分類し、観察した。黄色土はローム土、黒色土は表土や耕作土、褐色土は灰黄色や褐灰色など、明らかにローム土や表土、耕作土と相違が見られるものを褐色土の範疇に含めた。近年の検証調査では、黒色土の付着が有効な判断材料のひとつとされている（小野 2002他）。黒色土が石器に付着する要因としては、①石器が本来の包含層から耕作などの人为的な要因で移動することにより、表土や耕作土と直接的に接触する場合。②石器が元来黒色堆積層に包含される場合や、動植物の活動痕跡や気象などの自然要因（註1）によって表土や耕作土が流入し、間接的に接触する場合が考えられる。

#### (3) キズ（ガジリ）の痕跡の有無

キズ（ガジリ）は現代の耕作などが要因と考えられる。このうち線状のキズはL、新しい剥離痕をもつものはGとした。また、微細な剥離痕の扱いについては、調査後の保管状況や偶発的な接触で石器の縁辺に微細剥離が簡単に生じることを考慮し、あえて類型的な分類は行わずgとして表記した。ただし、顕微鏡観察によって微細剥離の成因が明確に褐鉄鉱L2に起因するものについては、キズ（ガジリ）の範疇に含めた。

#### (4) 摩耗の有無

摩耗は稜線上などの顕著なものを集計した。摩耗の度合いについては、観察する個人の主観的要素が強いため、客觀性を持たせることは極めて困難であると考えられた。このため、観察は摩耗の有無にとどめることとした。

#### (5) 風化の有無

風化の観察は上記の磨耗と同様の理由から、風化の度合いではなく、風化の有無にとどめた。黒曜石の表面に発達する水和層も風化の範疇として捉えた。

#### (6) 二重バティナの有無

二重バティナは、ひとつの石器に新旧の風化の違いが認められるものを集計した。玉髓など硬質の石材に加熱処理を行い、その後の剥離面に著しい光沢が観察されるものも二重バティナの範疇に含めた。また、

明らかに剥離面が新鮮で風化を伴わないものは、キズ（ガジリ）として捉えた。

#### (7) 押圧剥離痕の有無

押圧剥離痕は、押圧具を用いて剥離した痕跡を持つ石器を集計した。一般的な認識（註2）に基づく次のような特徴を持つものを押圧剥離痕として捉えた。剥離の稜線が並列かやや並列気味で、打点が非常に小さくつぶれが少ないもの。また、バルブの発達が顕著であり、意識的に連続する薄い剥離痕を残す場合が多いもの。

#### (8) 被熱痕の有無

被熱の痕跡は、被熱することによって石器表面にクレーター状の剥離や石器の内側からはじけたような剥離、ひび割れ、石器に含まれる鉄分の酸化によって引き起こされる赤色化などの痕跡を持つ石器を集計した。

また、この他に特記すべき事項がある場合は備考欄に別途記載することとした。

上記の項目に沿って遺物を観察するにあたり、主に倍率3～15倍のルーペでの観察を行った。さらに、東北歴史博物館よりオリンパスSZ-H実体顕微鏡（7～70倍）を借用し、台帳に1点ごと詳細に記載した。なお、各項目を図化するために必要な項目には、色を割り当て色鉛筆で実測図に図示した（凡例参照）。

## 2. 石器検証結果

志引遺跡出土石器163点、柏木遺跡出土石器235点、計398点の各観察項目の結果は以下の通りである。また、観察結果は表8～22にまとめ、出土遺物の実測図は全てを第4～32図に図示した。

### (1) 志引遺跡（表1・2）

#### ① 鉄分の付着

163点中148点（90.8%）に褐鉄鉱L2が観察された。このうち124点（83.8%）は両面に褐鉄鉱L2が観察された。

#### ② 付着土

163点中96点（58.9%）に黒色土の付着が観察された。このうち、黒色土のみが観察される割合は、96点中8点（8.3%）、黒色土と他の土が複合して見られる割合は、二色が67点（69.8%）、三色では21点（21.9%）となり、黒色土が単一で観察されるものより、〔黒色土と黄色土〕や〔黒色土と褐色土〕など複数の付着土が混在して確認される割合が高い。

#### ③ キズ（ガジリ）

163点中127点（77.9%）にキズ（ガジリ）が観察された。

#### ④ 磨耗

163点中21点（12.9%）に顕著な磨耗が確認された。

#### ⑤ 風化

163点中9点（5.5%）に風化が観察された。

#### ⑥ 二重バティナ

163点中8点（4.9%）に二重バティナが観察された。このうち8層から出土したNo.127は、被熱後の剥離面に顕著な光沢が生じており、これは二重バティナの範疇として捉えた。

#### ⑦ 押圧剥離

163点中25点 (15.3%) に押圧剥離痕が観察された。

#### ⑧ 被熱

163点中10点 (6.1%) に被熱の痕跡を確認した。二重バティナで抽出されたNo.127は、加熱処理された石器である。

### (2) 柏木遺跡 (表3~5)

#### ① 鉄分の付着

235点中105点 (44.7%) に褐鉄鉱L2が確認され、105点中72点 (68.6%) に褐鉄鉱L2が両面に観察された。7層上面出土石器124点では、87点 (70.2%) に褐鉄鉱L2が観察され、このうちの62点 (71.3%) は両面に褐鉄鉱L2が観察された。また、土壤1から一括出土した73点の石器のうち、13点に薄いサビ状の付着物が観察された。このサビ状の付着物は、褐鉄鉱L2とは様相を異にするため、褐鉄鉱L2 (?)として区別した。

#### ② 付着土

235点中131点 (55.7%) に黒色土が観察され、このうち、黒色土のみが観察される割合は、131点中66点 (50.4%) である。黒色土が複数の付着土として混在して観察される割合は、二色が64点 (48.9%)、三色では1点 (0.8%) であり、黒色土のほぼ半数が複数の付着土として観察された。また、7層上面出土石器124点では、123点 (99.2%) と非常に高い割合で黒色土の付着が認められた。

#### ③ キズ (ガジリ)

235点中95点 (40.4%) にキズ (ガジリ) が観察された。このうち前・中期旧石器時代とされた7層上面出土石器124点中72点 (58.1%) にキズ (ガジリ) が認められた。

#### ④ 磨耗

235点中6点 (2.6%) に顕著な磨耗が観察された。

#### ⑤ 風化

235点中3点 (1.3%) に石器の表面に風化が観察された。また、No.213は黒曜石の表面に発達した水和層を風化として捉えた。

#### ⑥ 二重バティナ

235点中18点 (7.7%) に二重バティナが観察された。このうちNo.8、30、38、45、46、51、56、63、99、102は被熱後の剥離面に顕著な光沢が生じており、これらも二重バティナの範疇として捉えた。

#### ⑦ 押圧剥離

235点中12点 (5.1%) に押圧剥離が観察された。

#### ⑧ 被熱

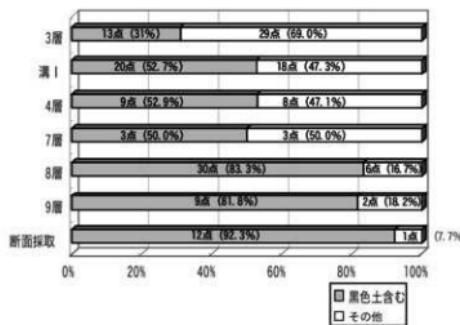
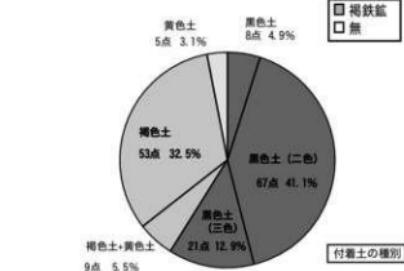
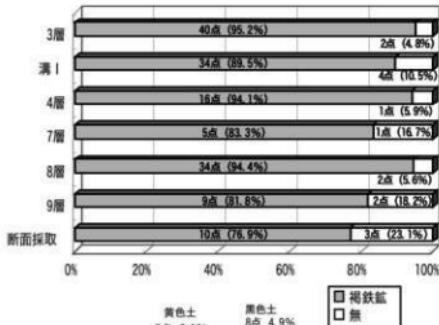
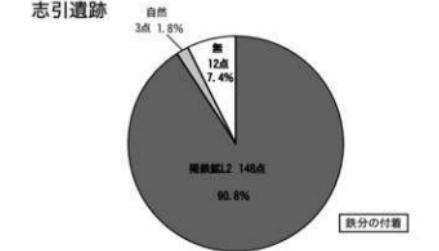
235点中20点 (8.5%) に被熱の痕跡が観察され、上述の二重バティナで抽出された10点は加熱処理された石器である。

## 3. 小 結

#### (1) 鉄分の付着

志引遺跡では148点 (90.8%)、柏木遺跡では105点 (44.7%) に褐鉄鉱L2が観察された。このうち、柏

### 志引遺跡



鉄分の付着	点数	%
褐鉄鉱L2	148	90.8%
自然	3	1.8%
無	12	7.4%
合計	163	100%

付着割合	褐鉄鉱L2 (点)	無 (点)
3層上面	40	2
溝I 塗土上層	34	4
4層	16	1
7層	5	1
8層	34	2
9層	9	2
断面採取	10	3
合計	148	15

付着土の種別	黒色土の内訳	点数	%
黒色土	黒色土のみ	8	8.3%
	黒色土(二色)	67	69.8%
	黒色土(三色)	21	21.9%
	合計	96	100%
褐色土+黒色土		9	5.5%
褐色土		53	32.5%
黄色土		5	3.1%
合計		163	100%

各層毎黒色土付着割合	黒色土付着 (点)	他の付着土 (点)
3層上面	13	29
溝I 塗土上層	20	18
4層	9	8
7層	3	3
8層	30	6
9層	9	2
断面採取	12	1
合計	96	67

表1 志引遺跡 石器検証項目別グラフ(1)

## 志引遺跡

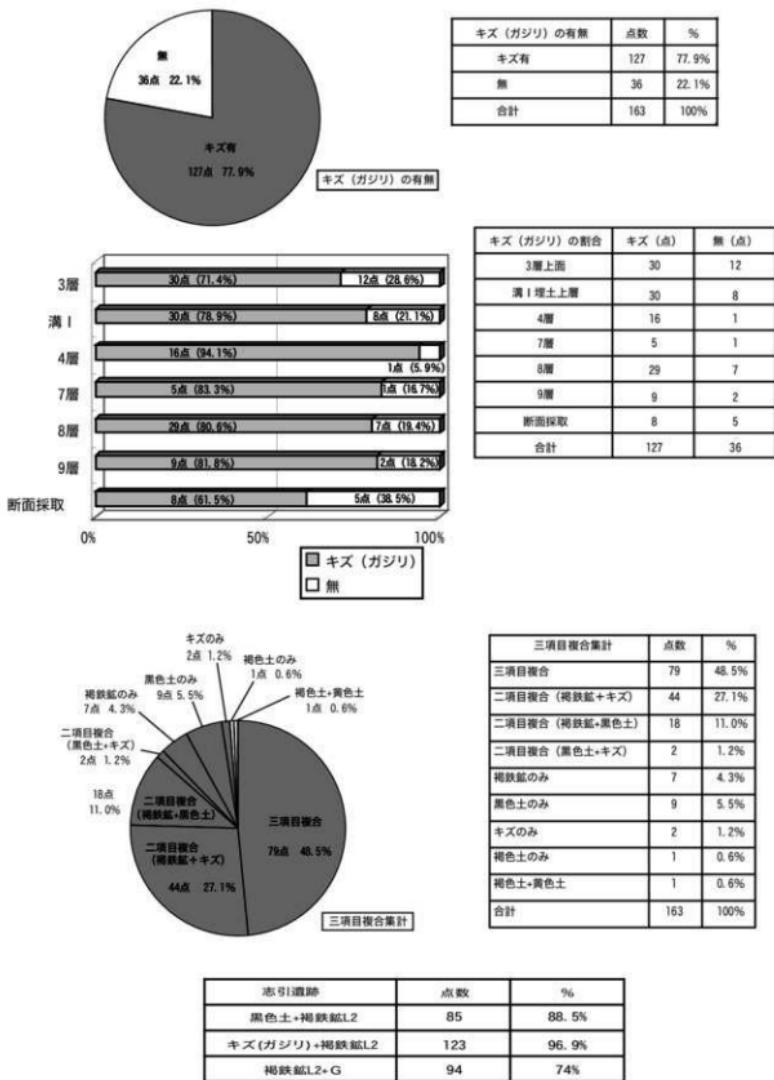


表2 志引遺跡 石器検証項目別グラフ(2)

### 柏木遺跡

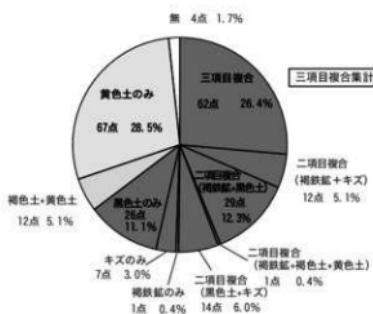
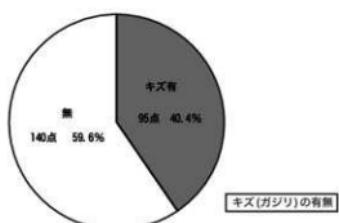
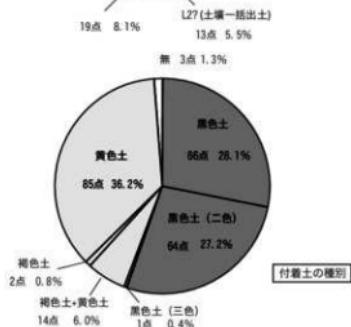
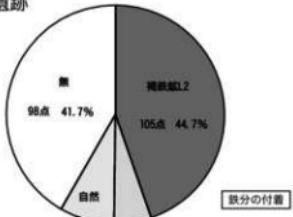
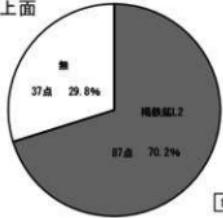
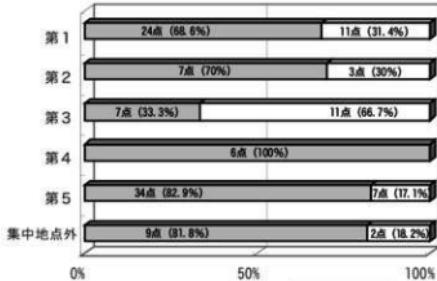


表3 柏木遺跡 石器検証項目別グラフ(1)

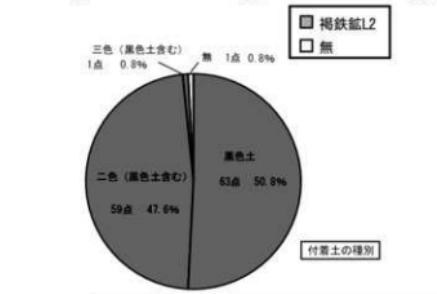
柏木遺跡 7層上面



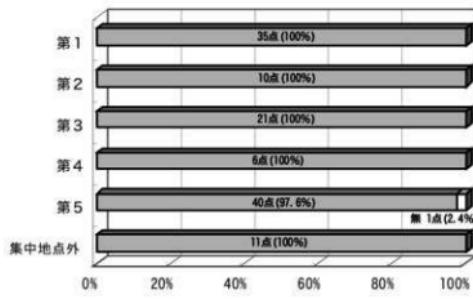
鉄分の付着	点数	%
褐鉄鉱L2	87	70.2%
無	37	29.8%
合計	124	100%



褐鉄鉱L2付着割合	褐鉄鉱L2 (点)	無 (点)
第1集中地点	24	11
第2集中地点	7	3
第3集中地点	7	14
第4集中地点	6	0
第5集中地点	34	7
集中地点外	9	2
合計	87	37



付着土の種別	点数	%
黒色土	63	50.8%
二色 (黒色土含む)	59	47.6%
三色 (黒色土含む)	1	0.8%
無	1	0.8%
合計	124	100%

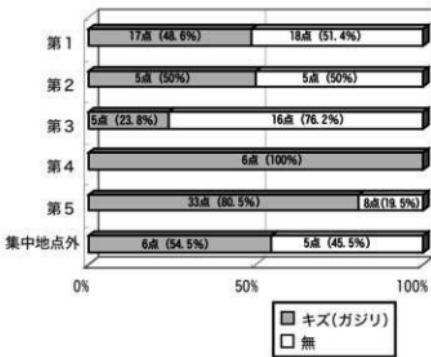
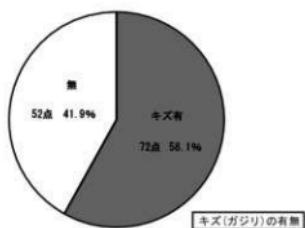


各集中地点毎黒色土割合	黒色土 (点)	無 (点)
第1集中地点	35	0
第2集中地点	10	0
第3集中地点	21	0
第4集中地点	6	0
第5集中地点	40	1
集中地点外	11	0
合計	123	1

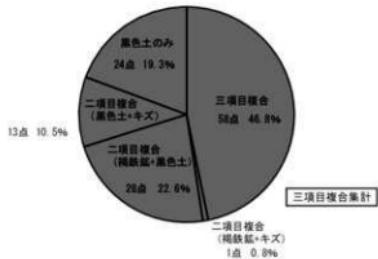


表4 柏木遺跡 石器検証項目別グラフ(2)

### 柏木遺跡 7層上面



キズ(ガジリ)の有無	点数	%
キズ有	72	58.1%
無	52	41.9%
合計	124	100%



項目	点数	%
三項目複合	58	46.8%
二項目複合(褐鉄鉱+キズ)	1	0.8%
二項目複合(褐鉄鉱+黒色土)	28	22.6%
二項目複合(黒色土+キズ)	13	10.5%
黒色土のみ	24	19.3%
合計	124	100%

項目	点数	%
柏木遺跡	90	68.7%
黒色土+褐鉄鉱L2	75	77.9%
キズ(ガジリ)+褐鉄鉱L2	49	51.6%

表5 柏木遺跡 石器検証項目別グラフ(3)

本遺跡では前・中期旧石器時代とされた7層上面に限れば、124点中87点（70.2%）に褐鉄鉱L2が観察された。褐鉄鉱L2が付着した石器の付着面の割合では、両面に付着したものが志引遺跡では148点中124点（83.8%）、柏木遺跡では、105点中72点（68.6%）に観察された。この両面に褐鉄鉱L2の付着が観察される石器は、耕作機具の鉄製部分との接触の際に耕作土とともに攪拌された結果と考えられる。

また、柏木遺跡土壤1出土石器13点に観察された褐鉄鉱L2（？）の付着要因を究明するため、一般的な黒色頁岩（山形県寒河江周辺採取）を使用した実験石器を作製し、これに移植ベラ、五寸釘、デバイダーの針で鉄分を付着させ90日間の埋設実験を行った（註3）。この結果、移植ベラ等の弱い接触では薄いサビは付着するが、サビが盛り上がるようには発達しにくいこと（註4）、また、自然成因のモヤ状付着（A）は、90日程度で石器に付着することが判明した（写真図版第2図8）。このことを踏まえて、柏木遺跡土壤1出土の石器13点に付着していた褐鉄鉱L2（？）を顕微鏡観察すると、大部分が鈍い光沢をもつ鉄分で一部に薄いサビが確認された。上記の実験石器に付着したサビと酷似することから、土壤1出土石器13点に付着した褐鉄鉱L2（？）は、発掘調査時に移植ベラ等の弱い接触によって付着したものと判断した。

#### ② 付着土

いずれの付着土もステップフレイキングの奥や自然面、節理面、剥離面の凹部などに顕著に認められた。黒色土の付着は、志引遺跡では各層に例外なく観察され、柏木遺跡では7層の各集中地點にいずれも高い割合で確認された。また、両遺跡ともに黒色土が単一で観察されるより、〔黒色土と黄色土〕、〔黒色土と褐色土〕など複数の付着土が混在して確認される割合が高い。黒色土の付着が認められる石器に褐鉄鉱L2が観察される割合は、志引遺跡96点中85点（88.5%）、柏木遺跡131点中90点（68.7%）となり、両者の相関関係は明らかである。

本来石器に観察される付着土は、遺物が含まれていた層に由来すると考えられる。柏木遺跡の基本層序は、1層（表土）・2層が近・現代の層、3層から6層が明黄褐色～赤褐色の火山灰層、7層・8層が凝灰岩層の基盤となる。調査前の地目は、山林及び畠地であり、3層上面に耕作による攪乱がおよぶ可能性は高いが、それより40～50cm下層の7層上面までおよぶことは考えにくい。まして最上層の表土が7層上面の石器に付着することはあり得ない。加えて1層～2層の土色・土性は暗褐色～黄褐色シルトであり、石器に付着していた黒色土とは異なるものである。このことは志引遺跡でも同様の状況である。以上のことから、石器に観察された黒色土は志引・柏木遺跡以外の場所で付着したものと考えられる。

#### ③ キズ（ガジリ）

志引遺跡127点、柏木遺跡95点にキズ（ガジリ）が観察された。キズ（ガジリ）と褐鉄鉱L2が複合して観察される石器の割合は、志引遺跡127点中123点（96.9%）、柏木遺跡95点中75点（77.9%）となる。このうち、褐鉄鉱L2+Gでは、志引遺跡127点中94点（74%）、柏木遺跡95点中49点（51.6%）に観察された。このことから、両遺跡の褐鉄鉱L2+Gとして観察された石器のキズ（ガジリ）の成因も耕作機具の鉄製部分との接触によって起きる一連の現象と捉えられる。

#### ④ 磨耗

志引遺跡21点、柏木遺跡6点に観察された。また、頁岩や玉髓など一般的に硬質と考えられている石材の稜線上にも顕著な磨耗が観察された。これらの石器は、何らかの要因で頻繁な移動を繰り返した結果、磨耗したものと考えられる。

##### (5) 風化

志引遺跡9点、柏木遺跡3点、凝灰岩質や流紋岩質の石材に顕著に観察された。

##### (6) 二重バティナ

志引遺跡8点、柏木遺跡18点に観察され、このうち、志引遺跡1点、柏木遺跡の10点については加熱処理後の剥離の光沢として観察された。

##### (7) 押圧剥離

志引遺跡25点、柏木遺跡12点に観察された。押圧剥離は日本では縄文時代からの技術と考えられており（御堂島 1993a・b）、この押圧剥離技法を用いた石器が柏木遺跡7層上面の前・中期旧石器時代とされた層から3点出土しており、これは明らかに不自然と思われる。

##### (8) 被熱

志引遺跡10点、柏木遺跡20点に観察され、このうち志引遺跡8層出土の1点、柏木遺跡7層出土の10点には加熱処理が施されている。この加熱処理は、日本においては縄文時代からの技術とされているものである（御堂島 1993a・b 2001）。志引・柏木遺跡の前・中期旧石器時代とされた層から、この加熱処理された石器が出土することは考えにくい。

上記の観察結果から、志引・柏木遺跡から出土した石器の大部分に何らかの不自然な痕跡が認められた。このうち①褐鉄鉱L2、②黒色土の付着、③キズ（ガジリ）が2項目以上複合して見られる割合は、志引遺跡163点中143点（87.7%）、柏木遺跡235点中118点（50.2%）であり、特に柏木遺跡7層上面出土石器は、124点中100点（80.6%）と高い割合を示している。このことから褐鉄鉱L2、黒色土の付着、キズ（ガジリ）には、「耕作機具の鉄製部分との接触」という現象を介しての強い相関関係が指摘できる。したがって、このいざれか重複して認められる石器は、耕作地などから採取され、志引・柏木遺跡に埋め込まれたものと考えられる。

（註1）仙台市山田上ノ台遺跡では後期旧石器として確実なものの中に黒色土が付着しているものが複数あり、これは後期旧石器時代の包含層にひび割れがあり、その隙間から上層の土が浸透・流入し、石器に付着したと考えられている（2002 仙台市教育委員会）。

（註2）押圧剥離については【①両辺が平行して、②同様な大きさの、③極めて薄い剥離痕をもたらし、④この剥離痕が連続して、⑤意図的である。⑥剥離の出発点は、打撃による潰れを示さず、しっかりとこみを示すことが多い】ものが一般に同意されている基準（小野 2002）とされている。石器製作実験からこれと同様の痕跡が確認されることから、今回の検証でもこれに準ることとした。

（註3）気象条件等を考慮していないため、今後再実験が必要だと思われる。

（註4）山田晃弘氏の御教示によれば、石器に耕作機具の鉄部が強い衝撃で接触した際に鉄粉が石器の表面に付着し、それがサビとして発達するという。実際、山田氏が耕作で強い接触を与えて埋設した実験石器には発達した褐鉄鉱L2を観察することができた。

#### 4. 縄文草創期とされた土器について

志引遺跡からは、道路断面から微隆起線文土器が1点（3層上面対応）、溝I埋土最上層から尖底状の底部片2点、3層上面から爪形文土器1点が出土している。これらは3層上面出土の石器群と共に伴したものと理解され、縄文草創期とした根拠の一つとされている。

3層上面・溝I埋土から出土した石器については、これまでの検討から不自然な付着物がみられ、他所から持ち込まれたものと考えざるを得ない状況にある。したがって、共伴した縄文草創期とされた土器に

ついても疑問が生じた。このため、これらの土器の所属時期について改めて検討してみる。

微隆起線文土器とされた土器は(第14図土器4)、口縁部破片で口唇断面形が平坦である。隆起線文は口縁に平行して3条貼り付けられており、その周囲には、白色の化粧土がうすく塗布され、その上からヘラ状工具でナデ調整がされている。また、これ以外の表裏面もナデ調整である。色調は黒褐色を呈し、焼成は良好で、胎土は細かい石英粒を含む。資料の観察や資料調査の結果、平坦な口縁、口唇部の押圧の有無、口縁の外反度、微隆起線のあり方(线条、振幅)、粘土の積み上げ方、白色化粧土の塗布などの点から、これまで発見されている東北地方の草創期の土器とは異なる点が多い(註1)。

このため、他の時期の類似する特徴を持つ土器を検索してみると、早期後葉の楕木I式(関東の野島式)、続繩文土器の北大I式があげられる。しかし、早期の土器とした場合、条痕がないこと、隆起線が幾何学的でないこと、北大I式とした場合、突瘤文がないこと、隆起線の线条が3条と少ないとこと、白色化粧土の類例が僅少なこと(註2)、地文がみられないことなどの疑問点が残る。これらのことから、微隆起線文土器とされた土器については、帰属時期を特定することができない。

尖底状の底部を持つ土器(第7図土器2・3)については、尖底の形態的特徴から早期中葉の田戸下層式に類似する(註3)。

爪形文土器とされた土器(第4図土器1)は、器面が摩滅しており詳細に観察することはできないので、明確な爪形文とは断定できない。むしろ微妙な振幅が認められることから貝殻腹縁圧痕文の可能性も考えられる。なお、この土器は4片に分かれて近接して出土し、接合したものである。接合面の状態を観察するためにアセトンを用いて慎重にはずした結果、この断面は非常に新鮮で、他の面とは明らかに風化度が異なっていた。このことから、爪形文土器とされた土器については出土状況に疑問が残る。

以上のことから、報告書において繩文草創期とされた土器については、繩文草創期と断定することはできず、より新しい時期のものと推定される。

(註1) 繩文草創期の土器観察方法および本資料については、佐々木洋治、金子直行、相原淳一氏のご教示によった。比較対象とした山形県高畠町内出土(日向洞窟等)の繩文草創期の土器実見に際しては、山形県立うきたむ風土記の丘資料館、高畠町教育委員会 井田秀和氏にご配慮いただいた。

(註2) 続繩文土器の白色化粧土等に関しては、石井 淳、佐藤 剛、木村 高、井上雅孝、佐藤信行、高木 晃、高橋誠明の各氏に地域ごとの情報を提供していただいた。白色化粧土は後北C2・D式には良くみられるが、北大I式段階では一般的でない。管見では東北地方の岩手県水沢市中平遺跡(高木ほか 2002 第2分冊 pp35 遺物図版33-497)、宮城県岩出山町木戸脇裏遺跡(佐藤1984 pp444 第3図3・5・II)、同村山遺跡(同 pp448 第4図2)で確認されたのみである。

(註3) 佐々木、相原氏のご教示による。

## IV. 発掘調査記録からの検討

### 1. 調査日誌からの検討

発掘調査日誌から石器の発見と藤村氏の関わりについて検討を行った。

志引遺跡については、調査日誌が消失しているため確定ではないが、鎌田氏の調査メモによってある程度参加日を把握することができる。調査は5月23日から6月28日までの期間で、土・日を含んだ28日間で

表6 志引遺跡の調査暦

日	月	火	水	木	金	土
	5/23	5/24	5/25 雨天中止	5/26 溝Ⅰ埋土 上面発見	5/27 3層上面発見	5/28 ★
5/29 4層上面 10層上面発見	5/30 ★	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4 第一回 現地説明会
6/5 ★ A2区 10層上面発見	6/6 A2区東半 7層上面発見	6/7	6/8	6/9 B-2C-2区 8層上面発見	6/10	6/11 ★ 第二回 現地説明会 9,10層上面発見
6/12	6/13 雨天中止	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18
6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25
6/26	6/27	6/28				

表7 柏木遺跡の調査暦

日	月	火	水	木	金	土
9/12 ★ 12点				10/1	10/2	10/3
10/4	10/5	10/6	10/7 1層 1点	10/8	10/9 1層 2点	10/10
10/11 3層 3点	10/12	10/13	10/14 2層 1点	10/15	10/16 2~3層 10数点	10/17
10/18 1~2層 2点以上	10/19	10/20	10/21	10/22 3層? 12点	10/23 2層、土壤1 10数点	10/24 ★ 第1,2集中地点 40数点
10/25 5点 (内3点×)	10/26 第3集中地点 21点	10/27 ★ 第3集中地点 21点	10/28	10/29 3層か4層 数点	10/30 3層 8点	10/31 層位不明 数点
11/1 ★ 第4,5集中地点 25点	11/2	11/3	11/4 1~3層 7点	11/5	11/6	11/7
11/8	11/9	11/10	11/11 ★ 第5集中地点 10数点	11/12 第5集中地点 1点	11/13 第5集中地点 1点	11/14 ★ 第5集中地点 8点
11/15 第5集中地点 4点	11/16	11/17	11/18	11/19	11/20	11/21
11/22 11/23	11/24	11/25	11/26	11/27 4層 1点	11/28	
11/29	11/30	12/1	12/2	12/3	12/4	12/5

★ 藤村氏調査参加日

■ ねつ造されたと思われる遺物出土

□ 現場休み

実施されている。藤村氏の参加日数は表6に示した4日間である。このうちの6月5・11日は、9・10層上面の石器の発見日と符合し、5月28日の翌日には4層上面の石器が発見されている。さらに、ここで河合信和著の「最古の日本人を求めて」に志引遺跡についての記録が掲載されているので引用・検討する。

名人の靈験は、やはりあらたかだった。彼が来ると、とたんに石器がザクザクと出てきたのだから。実は、地表を覆うブッシュを払うのに手間取り、本発掘が始まってわずか2、3日で、藤村の派遣予定日になってしまった。鎌田は、内心しまった、と思ったという。これでは肝心の時に、藤村を勤務先に帰さねばならなくなる、と判断したからである。ところが、案に相違して、層位が予想外に薄かったこともあります、藤村の参加と時を同じくして、旧石器文化層の出現となつた。「彼がきて、薄い表土を剥いだら、バーと出てきたんですよ。で、1週間、彼が来ないと、何も出てこないんですよ。その後、またやってくると、石器の出土となる。」

この文章から読みとることは、まず5月26日に石器が発見されているが、これが「本発掘が始まって2、3日で藤村の派遣予定日となつた」と一致する。「で、1週間、彼が来ないと、何も出てこないんですよ」が5月31日～6月4日にあたる。「その後、またやってくると、石器の出土となる」が6月5・6日の石器出土に符合する。以上のことから藤村氏の参加と石器の出土には相関関係が認められる。

柏木遺跡の調査は、10月1日から12月19日までの期間で、調査日数は69日間である。藤村氏が参加した日数は5日間であり（表7）、このうちの4日間に前・中期旧石器時代とされた7層上面の石器が集中して発見されている。また、11月1日も藤村氏が参加し、その翌日には第4・5石器集中地点が発見されている。このことから、柏木遺跡においても藤村氏の参加と石器の出土には強い相関関係が指摘できる。

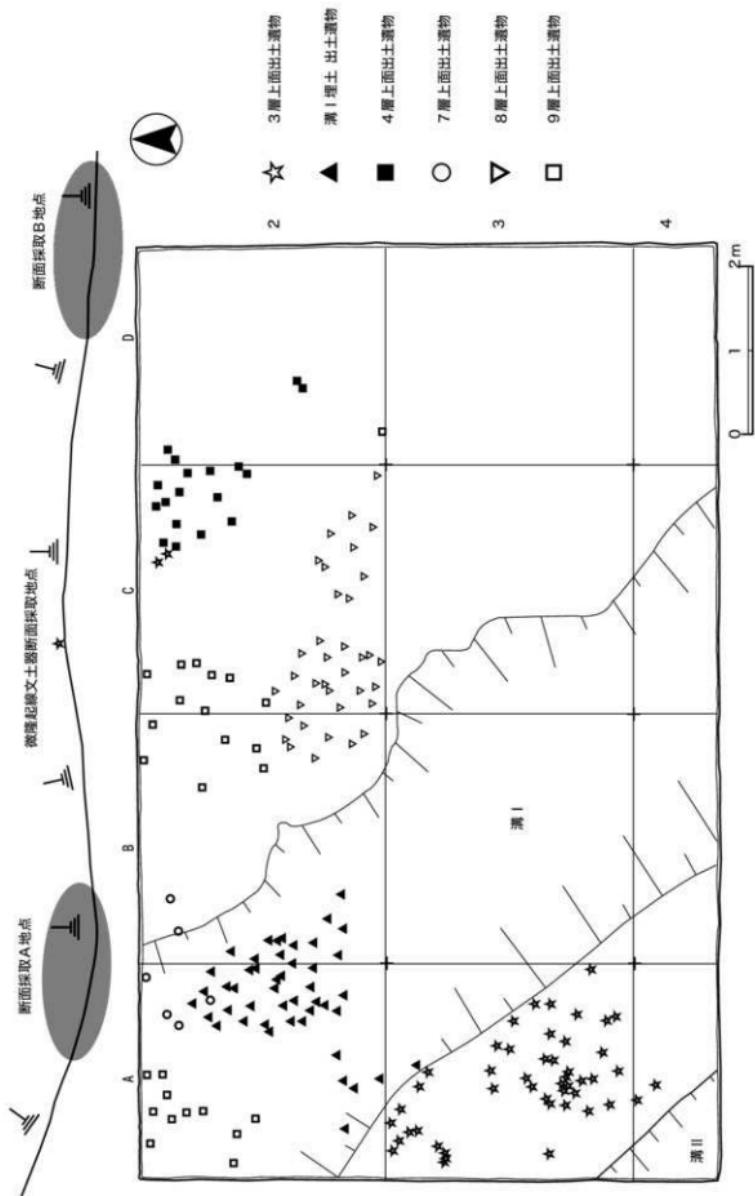
## 2. 石器の出土状況からの検討（第2・3図）

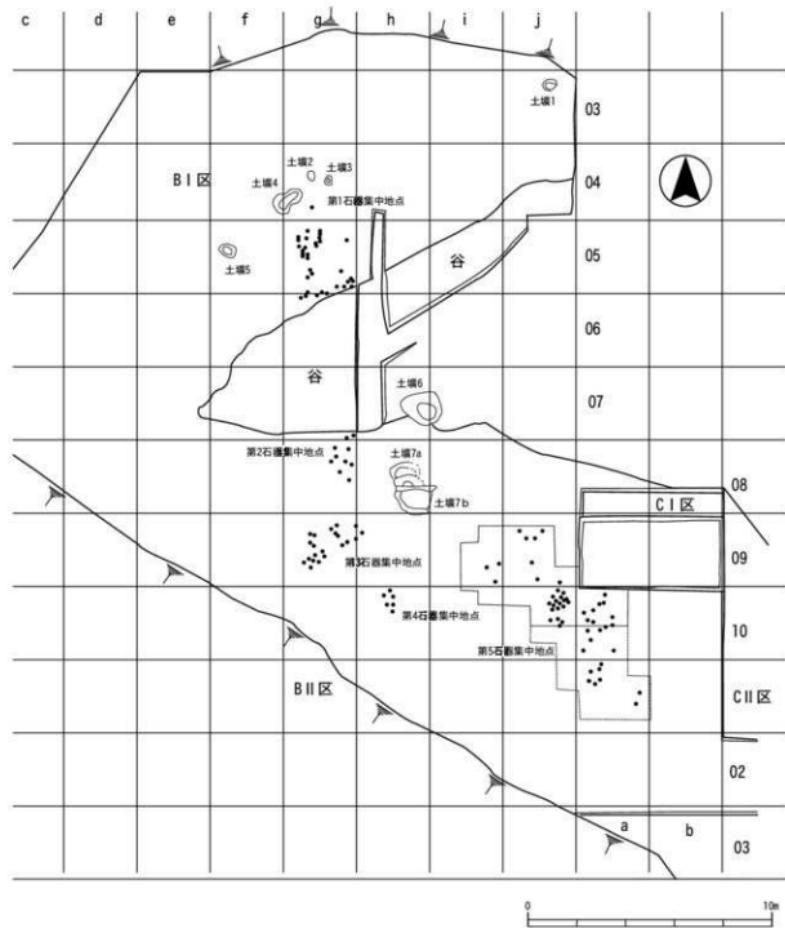
志引遺跡では、近世の溝Ⅰ埋土の最上層から縄文草創期の石器群が発見されている。この石器群は「隣接する第2石器集中地点の石器が、溝が最終的に埋まる段階で強い水流の淘汰作用を受け溝の窪地にまとまっており落ちたもの」と報告されている。この出土状況について改めて検討してみると、溝Ⅰの掘り込み面は石器が検出された3層上面より上の2層上面である。つまり、第2石器集中地点の石器群は2層に覆われていたことになり、それより上層から掘り込まれていた溝Ⅰ埋土の最上層に石器が流れ込むことは考えられない。さらに、溝Ⅰ埋土の石器は3層の石器とほぼ同一レベルかそれより高い位置で平面的に出土しており、これも不自然と言える。この溝Ⅰ埋土の石器群は、5月26日の発見当初は3層上面出土と理解されており、その後調査の過程で近世の溝と認識されたのは5月29日である。

次に、志引遺跡9層上面、柏木遺跡7層上面の石器出土のあり方について写真、実測図をもとに検討を試み、疑問となった点を以下に列記する。

- (1) 両遺跡に共通する石器の出土状況としては、石器が一旦取り上げられた後、検出面に置かれたもの（写真図版第3図4・5・7）や、石器の周辺に隙間が認められ、その周辺に細かい土塊がみられるもので、掘り方があるようみえるもの（写真図版第3図1～3・6）があり、地層に食い込んでいる状況の写真は残されていなかった。
- (2) 写真図版第3図4の志引遺跡溝Ⅰ底面付近の9層上面出土の石器を見ると、明らかに褐色の溝Ⅰ埋土にのっていることが確認できる。
- (3) 写真図版第3図5の志引遺跡第7集中地点では、9層と10層（基盤の凝灰岩層）にまたがって石器が出土している。
- (4) 柏木遺跡では、第1集中地点に沿って設定された土層観察用アゼの撤去を行っているが、この部分か

第2図 志引遺跡 各層出土石器分布図





第3図 柏木遺跡 遺構平面図（縄文時代）・7層上面石器分布図

らは1点の石器も出土しなかった。

- (5) 柏木遺跡の7層上面では(写真図版第3図7)、層中に酸化鉄の浸透と部分的な沈着面がみられるが、石器には酸化鉄の被膜は観察されなかった。
  - (6) 第2図は志引遺跡の各層出土の石器集中地点を1枚に合成したものである。これをみてわかるように各集中地点は、おおむね1.5m～2mの範囲におさまり、互いに重複することがない。このことは極めて不自然な分布状況と言えよう。
- 以上のこととは、通常の考古学的調査における遺物の出土状況とは異なるものである。

## V. まとめ

- 志引遺跡、柏木遺跡の検証調査結果について、以下に簡単にまとめることにする。
- (1) 石器検証の結果、志引遺跡では163点のうち161点の石器に鉄分の付着、黒色土の付着、キズ（ガジリ）などの不自然な痕跡が認められた。柏木遺跡では、前・中期旧石器時代とされた7層上面出土の石器124点については、全てに不自然な痕跡が認められた。これらの石器は、これまで日本考古学協会等の検証調査で指摘されている所謂「ねつ造」石器の特徴と一致している。
  - (2) 志引遺跡の縄文草創期とされた土器については、いずれも草創期の土器の特徴と異なる点が多く、明らかに後出の時期に属するものと見られるものもあり、出土状況にも不自然な点があることが明らかとなつた。
  - (3) 発掘調査記録の検討結果、両遺跡とも藤村氏が調査に参加した日と石器出土との間には相関関係が認められた。さらに、石器の出土状況においては、両遺跡ともに石器出土直後の状態を示す写真記録は見られず、志引遺跡溝1出土の石器および第7集中地点の石器出土状況には、層位的に矛盾した状態が確認された。
  - (4) 以上のことから、志引遺跡の発掘調査資料および柏木遺跡7層上面の石器は、全て疑わしいと言わざるを得えない。また、志引・柏木遺跡の発見に伴う石器にも不自然な痕跡が認められたことから、発見当初から「ねつ造」されたものである。したがって、これらの資料は学術資料として取り扱うことは出来ないと判断する。
  - (5) 柏木遺跡からは、縄文晩期の土器を出土した土壤が発見されており、全体的に不自然な痕跡が認められない石器73点を出土した土壤1や表土層から3層にかけて出土した石器については、縄文晩期に帰属する可能性を指摘しておきたい。
  - (6) 志引・柏木の両遺跡は、藤村氏が調査に関わりながら、「ねつ造」を告白した42遺跡には含まれておらず、この検証調査によって告白されていない遺跡に於いても「ねつ造」が行われていたことが明らかとなつた。
  - (7) 志引・柏木遺跡の検証結果の措置として、当市としては志引遺跡の旧石器時代、縄文時代草創期および柏木遺跡の旧石器時代を全ての資料から削除することにした。

平成12年11月に発覚した旧石器「ねつ造」事件は、社会全体に大きな衝撃と考古学に対する不信感を与える、その影響は末端の教育現場や市町村の文化財行政にも及んでいる。この前代未聞の「ねつ造」事件によって大きく揺らいだ考古学に対する信頼を回復させるため、日本考古学協会等の学会や関係自治体でも検証調査が行われており、その実体が次第に明らかになってきている。

当市において、とりわけ本ねつ造事件は、事件を引き起こした藤村氏が所属していた東北旧石器文化研究所が所在していたこともあってか、市民の関心は高かった。そのため、「ねつ造」発覚当初から市内に所在する旧石器時代の遺跡である志引・柏木遺跡について、市議会でも度々取り上げられたり、各種のサークルなどで市民と接する度に必ずと言っていいほど「ねつ造」問題に関連する質問を受けてきた。

志引・柏木遺跡の旧石器発掘調査に対する再検証調査は、両遺跡の発掘遺物をこのまま歴史資料として扱うか否かの判断を下すことは勿論のこと、疑惑を持っている市民の声に答えることでもあった。市民や

マスコミの関心は、志引遺跡の再発掘はいつ行なわれるのか、ということだった。しかし、私たちは、はじめに石器の検証調査を行い、その後志引遺跡の再発掘調査に踏み切ることにした。それは、最終的な結論を出すためには判断材料が多い方がよいと考えたからである。

これまで、志引・柏木遺跡の旧石器時代が当市の文化のあけぼのであると信じ、市埋蔵文化財調査センター常設展示や市内小学校の副読本等に記載してきた。この責任の一端は、私たちにもある。その反省に立って市独自で検証調査を行ってきた。

しかし、志引・柏木遺跡の石器検証の結果は、これだけで旧石器時代としての遺跡を否定せざるを得ないと言ふ程惨憺たる状態であった。志引遺跡を再発掘調査する余地を残さないほど無惨な結果に終わった。

この「ねつ造」問題によって、暗い陰を落としていた埋蔵文化財の発掘調査をはじめとする文化財行政に対して一日も早く市民の信頼と期待を回復するため、私たちはなお一層努力して行かなければならぬ。そのためには、発掘調査作業や調査結果の公開と共に理解、情報の提供、相互批判をこれまで以上に行つていく必要があると考える。

末筆になりましたが、この度の検証調査や本報告書の作成に関して御指導、御協力を頂いた多くの方々、関係機関に対して、感謝の意を表す次第であります。

#### 【引用・参考文献】

- 上高森遺跡検証発掘調査団 2001 「上高森遺跡検証発掘調査現地説明会資料」  
上高森遺跡検証発掘調査団 2002 「宮城県策定上高森遺跡検証発掘調査報告書」  
日本考古学協会 2002 「前・中期旧石器問題調査研究特別委員会報告(II)」  
座散乱木遺跡発掘調査委員会・座散乱木遺跡発掘調査団 2002 「宮城県岩出山町座散乱木遺跡発掘調査結果報告」(現地説明会資料)  
菊池 強一 2001 「石器の産状は何を語るのか—検証の一歩前進のために—」『科学』vol.71 No.2 pp160-165  
仙台市教育委員会 2002 「仙台市山田上ノ台遺跡第3次調査」『平成14年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp1-6  
埼玉県教育委員会 2002 「石器による検証」『埼玉県前期旧石器問題検討報告書』pp37-80  
長沼 正樹 2002 「褐鉄鉢付着珪質頁岩製石器の定量的検討」『真人原遺跡』真人原遺跡発掘調査団pp135-142  
小野 昭 2002 第1(遺物検証)作業部会報告一出土資料に観察された疑義の実態—「2001年度前・中期旧石器問題調査研究特別委員会報告(II)」pp81-106  
御堂島 正 1993 a 「石器製作における加熱処理」『二十一世紀への考古学』雄山閣pp1-14  
御堂島 正 1993 b 「加熱処理による石器製作—日本国内の事例と実験研究—」『考古学雑誌』vol79 No.1 pp1-18  
御堂島 正 2001 「トラセオロジーとしての実験考古学—石器製作における加熱処理を例として—」『考古学ジャーナル』No.479 pp9-12  
須田良平ほか 1990 「昭和遺跡」宮城県文化財調査報告書第132集  
河合 信和 1987 「最古の日本人を求めて」  
山形県 1969 「山形県史 考古資料」資料編II  
宮城県 1981 「宮城県史34 考古資料」資料集V  
岡本 勇編 1982 「縄文土器大成 I 章・前期」  
埼玉考古学会 1986 「埼玉考古」『埼玉考古学会30周年記念シンポジウム資料』  
横浜歴史博物館 1996 「縄文時代草創期」資料集  
鹿児島県歴史資料センター黎明館 2000 「縄文のあけぼの—南九州に花開いた草創期文化—」図録  
高木 晃ほか 2002 「中人遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第380集  
佐藤 信行 1984 「宮城県内の北海道系遺物」『宮城の研究』I 考古学編pp426-478

表8 志引遺跡石器調査表(1)

番号	遺物名	石材	出土部位	鉄分の付着				珪質土				キズ				摩滅風化				二級バッチ				修正割合				地質G				備考			
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)	(M)	(N)	(O)	(P)	(Q)	(R)	(S)	(T)	(U)	(V)	(W)	(X)	(Y)	(Z)						
1	石斧頭部	珪質岩	2層上層	×	D	D	D	g	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	地質G+シガ					
2	石鏡	珪質岩	2層上層	L2(c)B	L2(a)A	D-B-Y	x	R	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	新井山にシガ						
3	二次加工削片	珪質岩	3層上層	L2(c)	L2(a,c)	B-D	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	表面より裏面に剥離有り						
4	不定形石器	珪質岩	2層上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-D	x	R	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	全体的に剥けた感じの特徴						
5	無茎石器	珪質岩	2層上層	L2(e)	L2(e)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1.2e+G						
6	尖頭器	珪質岩	2層上層	L2(c)	L2(c)	B-D	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	斜せ面かシガに黄色土被り						
7	尖頭器	珪質岩	2層上層	L2(c)	L2(a,c)A	D	B-D	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	表面未露出・裏面二色						
8	尖頭器	珪質岩	3層上層	L2(c)	L2(a,c)	D	D	x	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	端面L2e+G、二面削りあり						
9	不定形石器	珪質岩	3層上層	L2(c)	L2(c)	B-D	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	付着土D+Gに由来						
10	～状石器	珪質岩	3層上層	L2(a,c)	L2(a,c)	D	D	G	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x							
11	～状石器	珪質岩	2層上層	L2(c)	L2(a,c)	D	D	B	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x							
12	石鏡	珪質岩	3層上層	-	x	D	B-D	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x								
13	～状石器	珪質岩	3層上層	L2(a,c)	L2(a)	D	D	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	～状石器							
14	測定	珪質岩	2層上層	L2(a,c)A	L2(a,c)A	D	D	G	L-G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	骨面L2e+G							
15	二次加工する削片	珪質岩	3層上層	L2(c)	L2(a,c)	D	D	G	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	骨面L2e+G							
16	二次加工する削片	珪質岩	3層上層	L2(c)	L2(a,c)	D	D	G	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	骨面L2e+G							
17	二次加工する削片	チャート	3層上層	L2(c)	L2(a)	D	D	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	骨面L2e+G							
18	一次加工する削片	珪質岩	3層上層	L2(a,c)	L2(a)	D	D	G	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	カジリの上に灰褐色土被り							
19	測定	珪質岩	3層上層	L2(c)	L2(c)	D	D	H	H	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1.2e+G							
20	測定	珪質岩	3層上層	-	x	L2(a,c)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1.2e+G							
21	二次加工する削片	珪質岩	3層上層	L2(a,c)	L2(a,c)	D	D	G	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x									
22	二次加工する削片	珪質岩	3層上層	L1,L2(a,c)	L2(a)	D	D	H	H	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x									
23	二次加工する削片	珪質岩	2層上層	L2(c)	L2(a,c)	D	D	G	R	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1.2e+G								
24	二次加工する削片	珪質岩	3層上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-D	G	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1.2e+G+L-G								
25	二次加工する削片	チャート	3層上層	L2(a)	L2(a)	D	D	G	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1.2e+G+L-G								
26	二次加工する削片	珪質岩	3層上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B-D	G	G	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1.2e+G								
27	二次加工する削片	チャート	3層上層	L2(c)	L2(c)	D	D	L-G	R	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	青面に銀灰色&赤								

表 9 志引遺跡石器觀察表(2)

番号	岩相名	石 材	出土位置	鉱 分 の 付 程			特 育 土	特 育 土	特 育 土	特 育 土	特 育 土	特 育 土	被 覆	相 様/G	備 考	
				(A)	(B)	(C)										
28	鉄片	鉄質岩	3層上端	×	L2(a)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	L2a+G	板状L2a→HRa面G
29	二次工である鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(a,c)	L2(a,c)	B+D	D	G	x	x	x	x	x	x	L2e+G	L2e+G
30	半定石岩	鉄質岩	3層上端	L2(c)	L2(c)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	L2e+G	板状L2e+G
31	△の状岩	鉄質岩	3層上端	L2(a)	L2(c)	D	D	G	x	x	x	x	x	○	○	塊状L2a+Gは削り落し
32	二次工である鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(e)	L2(e)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	L2e+G	
33	二次工である鉄片	チヤート	3層上端	L2(a,c)	L2(a,c)	D	D	x	x	x	x	x	x	x	x	
34	二次工である鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(a,c)	L2(a,c)+B	D	D	G	x	x	x	x	x	x	x	L2a+G
35	鉄質岩密石岩	鉄質岩	3層上端	L2(a,c)	L2(a)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	x	L2e+G
36	二次工である鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(a,c)	L2(a,c)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	x	L2a+G
37	二次工である鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(e)	L2(a,c)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	x	L2e+G
38	二次工である鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(e)	L2(a)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	x	L2e+G
39	二次工である鉄片	チヤート	3層上端	L2(a,c)	L2(a,c)	D	D	G	x	x	x	x	x	x	x	先端部は削り落し
40	鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(c)	L2(c)	D+B+Y	D+B+Y	G	x	x	x	x	x	x	x	L2e+G
41	二次工である鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(a,c)	L2(a,c)	B+D	B+D	G	x	x	x	x	x	x	x	2種類の付程
42	二次工である鉄片	鉄質岩	3層上端	L2(a,c)	L2(a,c)	B+D	B+D	G	x	x	x	x	x	x	x	L2e+G
43	石 滅	鉄質岩	満1層	L2(c)	L2(c)	B+Y	B+Y	B	G	x	x	x	x	○	○	石 滅で2?
44	石 滅	鉄質岩	満1層	L2(a,c)	L2(a,c)	B+D	B+D	B	G	x	x	x	x	○	○	L2e+G
45	石 滅	鉄質岩	満1層	L2(a,c)	L2(a,c)	D	D	G	x	x	x	x	x	○	○	L2e+G
46	不定石岩	鉄質岩	満1層	L2(c)	L2(c)	B+D	D	G	x	x	x	x	x	○	x	L2e+G
47	実底	鉄質岩	満1層	×	B+D	D	A	O	O	x	x	C7	C7	O	O	斜面には擦痕無し
48	不定石岩	鉄質岩	満1層	L2(a,c)	L2(a,c)	B+D	D	G	x	x	x	x	x	○	x	L2e+G
49	不定石岩	鉄質岩	満1層	L2(c)	L2(c)	B+D	D	G	x	x	x	x	x	○	x	L2e+G+L2a+G H 9
50	不定石岩	鉄質岩	満1層	L2(c)	L2(c)	D+B+Y	B	G	x	x	x	x	x	○	x	L2e+G
51	不定石岩	鉄質岩	満1層	L2(e)	L2(a,c)	D+B+Y	D+B+Y	D	G	G	x	x	x	x	x	
52	実底	鉄質岩	満1層	L2(e)	×	D	B+D	G	a	x	x	x	x	x	x	L2e+G
53	石 滅	鉄質岩	満1層	L2(c)	L2(c)	B+D	B+D	G	x	x	x	x	x	○	x	L2e+G
54	石 滅	鉄質岩	満1層	L2(c)	×	B+D	B+D	u	a	○	x	x	x	○	x	

表10 志引遺跡石器観察表(3)

番号	器物名	石材	出土部位	鉄分の付着			研磨土			キズ			摩滅			風化			二重 バタナ			修正判別			備考	
				(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)		
55	石鏡	特質鏡	第1層土:	×	×	D	B-D	G	S	○	○	×	×	×	×	○	○	×	○	○	×	○	○	×	L2e-G	
56	鏡	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(a)	D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	経済的影響なしG
57	石鏡	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(a)	B-D	B-D	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	先端部赤色は地色の影響か?
58	石鏡	特質鏡	第1層土:	×	×	D	D-Y	R	R	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両面に焼けハジケ有り
59	石鏡	特質鏡	第1層土:	L2(e)	L2(e)	D	D	×	R	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
60	鏡のあら巻手鏡	安山岩?	第1層土:	×	L2(a)	B-D	D	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
61	鏡	安山岩?	第1層土:	×	×	D	D	L	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
62	～次加工ある鏡片	特質鏡	第1層土:	L2(e)	L2(a-c)	B-D	B-D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2e-G	
63	～次加工ある鏡片	特質鏡	第1層土:	L2(e)	×	D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	鏡k-L2e-G
64	鏡	玉髓	第1層土:	L2(e)	L2(a)	D	D	G	X	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2e-G
65	鏡	特質鏡	第1層土:	C	L2(a-c)	D	D	R	R	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
66	不定形石器	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(c)	B-D	B-D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
67	鏡	チヤット	第1層土:	L2(a)	L2(a)	D	D	R	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
68	不定形石器	砂岩	第1層土:	L2(a-c)	×	B-D	D	G	L-G	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
69	鏡	特質鏡	第1層土:	L2(c)	L2(a)	B-D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2a-G-L2c-G	
70	鏡	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(c)	B-D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2c-G	
71	不定形石器	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(a)	B-D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	L2a-G-L2c-G	
72	鏡	特質鏡	第1層土:	×	L2(c)	D	D	G	G	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	鏡合併一層小・複数枚あり	
73	鏡	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(c)	D	X	G	R	○?	X	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2c-G	
74	鏡	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(a,c)	D	D	G	G	×	○?	○?	○?	○?	○?	○?	○?	○?	○?	○?	○?	○?	○?	○?	L2c-G	
75	鏡	特質鏡	第1層土:	×	L2(a)	D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2c-G	
76	鏡	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(a)	D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2c-G	
77	鏡	鏡	第1層土:	L2(a-c)	L2(a,c)	D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2a-G	
78	鏡	特質鏡	第1層土:	L2(c)A	L2(c)	D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2e-G	
79	～次加工ある鏡片	特質鏡	第1層土:	L2(a-c)	×	D	D	G	G	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	L2e-G	
80	斜葉彫	特質鏡	表土:	L2(c)	×	D	D	G	G	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	L2c-G	
81	～次加工ある鏡片	特質鏡	4層上端	L2(c)	L2(a,c)	B-D	D	X	X	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

表11 志引遺跡石器觀察表(4)

表2 志引遺跡石器調査表(5)

番号	遺物名	石材	出土部位	鉄分の付着			珪質土			炭化			二酸化バナジウム			新王朝期	地表G	備考
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)			
109	二次地山から削り出 した鉄石器	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a)	B-D	B	L-G	L-G	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
110	測定	鉄石器	8号上層	L2(c)	L2(a)	B-D	D	G	G	X	X	X	X	X	X	O	O	1.2e+G
111	二次地山から削り出 した鉄石器	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	D	D-Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
112	測定	鉄石器	8号上層	X	X	D-B-Y	R	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G
113	二次地山から削り出 した鉄石器	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-D	B-Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G
114	不定形石器	鉄石器	8号上層	L2(c)	L2(c)	B	B	X	X	X	X	O	O	X	X	X	X	新王朝期上層G
115	不定形石器	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(c)A	B-Y	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G
116	玉類	玉類	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
117	不定形石器	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-Y	B-Y	L-G	L-G	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G
118	二次地山から削り 出したチート	チート	8号上層	L2(c)	L2(a)	B	Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G
119	不定形石器	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	Y	Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
120	測定	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-Y	G	G	X	X	O	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
121	圓形石器	オベール	8号上層	L2(c)	L2(c)	B-D	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
122	不定形石器	チート	8号上層	L2(c)B	X	B-D	B-Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
123	石核	チート	8号上層	X	X	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
124	石核	石核	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-Y	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
125	二次地山から削り 出したチート	チート	8号上層	L2(c)	L2(a,c)	D-B-Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
126	不定形石器	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	D-Y	D-Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
127	不定形石器	チート	8号上層	L2(c)	X	Y	B-Y	X	X	X	X	O	O	X	X	O	新王朝期上層G	
128	測定	鉄石器	8号上層	L2(c)	X	B-Y	B	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
129	測定	玉類	8号上層	L2(a)	L2(a)	B-D	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
130	測定	鉄石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B-Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
131	測定	鉄石器	8号上層	L2(c)	L2(a,c)	B-Y	Y	L-G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
132	測定	チート	8号上層	L2(c)C7	L2(a,c)C7	B-Y	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
133	二次地山から削り 出したチート	チート	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-Y	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
134	二次地山から削り 出したチート	チート	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	D-Y	D-B-Y	R	G	X	X	X	X	X	X	X	X	新王朝期上層G
135	測定	鐵石器	8号上層	L2(a,c)	L2(a,c)	B-Y	B	L-G	L-G	X	X	O	O	X	X	X	X	新王朝期上層G

表13 志引遺跡石器觀察表(6)

標名	種子番号	石 粒	出上位管	株 分 の 枝 種			根 肪 土	生 長	葉 滅	花 亂	二 亂	ハナイチ	被 捕 虫	被 捕 虫
				(A)	(B)	(C)								
測定	136	片状	片状根管	8根上位 ナガトト	L2(a)B	L2(a)B	B+Y	G	×	×	×	×	×	×
測定	137	片状	片状根管	8根上位 ナガトト	L2(a)	L2(a)	B+Y	G	×	×	×	×	×	×
一次地工から測定	138	砂粒	片状根管	8根上位 ナガトト	B	B	B+Y	B+Y	○	○	○	○	○	○
一次地工から測定	139	砂粒	片状根管	8根上位 ナガトト	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	D+B+Y	G	×	×	×	×	×
一次地工から測定	140	砂粒	9根上位 玉網	9根上位 玉網	×	X	B+Y	B	X	G	×	×	×	×
一次地工から測定	141	砂粒	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	D+D+Y	B	G	×	×	×	×	×	1.2c+G, 1.2a+G, 1.2b+G, 1.2d+G
測定	142	玉網	9根上位 玉網	L2(c)	L2(a)	B	B+D	×	×	×	×	×	×	1.2c+G
一次地工から測定	143	砂粒	9根上位 玉網	×	X	B+Y	D+B+Y	8	8	×	×	×	×	1.2c+G
不完全石墨	144	石核	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a)	B+D	D	G	8	×	×	×	×	1.2c+G
不完全石墨	145	石核	9根上位 玉網	×	X	L2(a)	D+Y	G	8	×	×	×	×	1.2c+G
一次地工から測定	146	砂粒	9根上位 玉網	L2(c)	B	B	G	L-G	×	×	×	×	×	1.2c+G
不完全石墨	147	石核	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	B	D+B+Y	G	8	×	×	×	×	1.2c+G
一次地工から測定	148	砂粒	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	D+Y	D	G	8	×	×	×	×	1.2c+G
不完全石墨	149	石核	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	G	8	×	×	×	×	1.2c+G
不完全石墨	150	石核	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	G	8	×	×	×	×	1.2c+G
不完全石墨	151	石核	9根上位 玉網	×	X	B+Y	8	8	8	8	8	8	8	1.2c+G
不完全石墨	152	測定	9根上位 玉網	×	X	Y	D+B+Y	8	8	8	8	8	8	1.2c+G
不完全石墨	153	石核	9根上位 玉網	L2(c)A	L2(c)A	D+Y	X	G	8	8	8	8	8	1.2c+G
不完全石墨	154	石核	9根上位 玉網	L2(a,c)A	L2(a,c)A	B+Y	B+Y	G	8	8	8	8	8	1.2c+G
一次地工から測定	155	砂粒	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	D+B+Y	B+Y	8	8	8	8	8	8	1.2c+G
不完全石墨	156	石核	9根上位 玉網	L2(c)A	L2(a,c)A	D+B+Y	B+Y	G	8	8	8	8	8	1.2c+G
不完全石墨	157	石核	9根上位 玉網	L2(a,c)A	L2(a,c)A	B+Y	B+Y	G	8	8	8	8	8	1.2c+G
一次地工から測定	158	砂粒	9根上位 玉網	1.2(c)	1.2(c)	X	B+Y	G	8	8	8	8	8	1.2c+G
一次地工から測定	159	砂粒	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	B+Y	G	8	8	8	8	8	1.2c+G
一次地工から測定	160	砂粒	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	D+B+Y	B+Y	G	8	8	8	8	8	1.2c+G
不完全石墨	161	砂粒	9根上位 玉網	1.2(c)	1.2(c)	B+Y	B+Y	G	8	8	8	8	8	1.2c+G
不完全石墨	162	砂粒	9根上位 玉網	L2(a,c)	L2(a,c)	B+D	D	G	8	8	8	8	8	1.2c+G

表14 志引遺跡石器観察表(7)

番号	遺物名	石材	出土部位	鉄分の付着		珪質土		キズ		摩滅		風化		二級 バチャ		修正判別		被施灰		備考	
				(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)		
163	石斧	玉頭	磨油頭部	L1	L1	D+B-Y	B-Y	X	X	O	O	X	X	O	O	X	X	X	X	1982.07.10	
1	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
3	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
4	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
5	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
6	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
7	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
8	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
9	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
10	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
11	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
12	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
13	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n
14	—	安山岩	9層上面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	n

志引遺跡

表15 柏木遺跡石器觀察表(1)

番号	固有名	石種	出上位度	鉱物の種類			付着土	生長	剥離	風化	二段階 バナナイ			被換鉱	鉱物G
				(赤)	(黒)	(黒)					(赤)	(黒)	(赤)		
1	石灰-二水矽工	滑面石英	7斜面1側の頂点	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B+Y	G	G	x	x	x	x	x	L2c+G
2	石板	玉髓	7斜面1側の頂点	L2	B	B	G	x	x	x	x	x	x	x	L2c+G
3	石板	柱状石英岩	7斜面1側の頂点	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B+Y	L+G,L,G	x	x	x	x	x	x	L2c+G
4	石板	玉髓	7斜面1側の頂点	x	x	Y	B+Y	L+G,L,G	x	x	○	○	x	x	L2c+G
5	石板	玉髓	7斜面1側の頂点	A	A	B	B	x	x	x	x	x	x	x	被換
6	~一次地Tある割面	滑面石英	7斜面1側の頂点	L2(c)	L2(a,c)	B+Y	B	x	Y	x	x	x	x	x	被換
7	石板	玉髓	7斜面1側の頂点	x	x	B	B	x	R	x	x	x	x	x	被換
8	不透形石墨	玉髓	7斜面1側の頂点	x	L2(c)	B	B	x	G	x	x	○	○	○	石墨未見
9	~一次地Tある割面	玉髓	7斜面1側の頂点	x	x	B+Y	B	G	G	x	x	○	○	○	被換
10	~二次地Tある割面	玉髓	7斜面1側の頂点	x	x	B+Y	G	x	x	x	x	x	x	CP	被換
11	不透形石墨	滑面石英?	7斜面1側の頂点	L2(c)	L2(c)	B	B+Y	x	G	x	x	x	x	x	L2c+G
12	石板	玉髓	7斜面1側の頂点	L2(c)	L2(c)	B	B	x	x	x	x	x	x	x	被換
13	~一次地T	玉髓	7斜面1側の頂点	L2	x	B	B	x	x	x	x	x	x	x	基底面相
14	滑面	玉髓	7斜面1側の頂点	x	x	B	B	x	x	x	x	x	x	x	被換
15	~二次地Tある割面	玉髓	7斜面1側の頂点	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	R	x	x	x	x	x	x	L2c+G
16	~二次地Tある割面	玉髓	7斜面1側の頂点	L2	x	B+Y	B+Y	G	x	x	x	x	x	x	被換S?
17	石板	玉髓	7斜面1側の頂点	x	L2(c)	B	B+Y	x	x	x	x	○	x	x	被換
18	滑面	滑面	7斜面1側の頂点	L2(a)	L2(a,c)	B+Y	B	G	x	x	x	x	x	x	L2c+G
19	不透形石墨	玉髓	7斜面1側の頂点	A	A	B+Y	B+D	R	G	x	x	x	x	x	被換
20	不透形石墨	玉髓	7斜面1側の頂点	L2(c)	x	B	B	R	x	x	x	x	x	x	被換
21	~二次地Tある割面	玉髓	7斜面1側の頂点	x	x	B+Y	B+Y	B	x	x	x	x	x	x	被換
22	不透形石墨	滑面	7斜面1側の頂点	L2(c)	B+Y	B+Y	G	x	x	x	○	x	x	x	L2c+G
23	~二次地Tある割面	玉髓	7斜面1側の頂点	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	B+Y	x	x	x	x	x	x	x	被換
24	滑面	玉髓	7斜面1側の頂点	x	L2(a)	B+Y	Y	x	x	x	x	x	x	x	被換
25	滑面	玉髓	7斜面1側の頂点	x	L1	B	B	x	x	x	x	x	x	x	L2c+G
26	~二次地Tある割面	玉髓	7斜面1側の頂点	L2(a)	L2(a,c)	B	B	G	x	x	x	x	x	x	L2c+G
27	滑面	玉髓	7斜面1側の頂点	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	G	x	x	x	x	x	x	L2c+G

表6 柏木遺跡石器觀察表(2)

番号	器物名	石材	出土部位	鉄分の付着			珪質土			アゲ			層			二段 バウチ			新玉利頭			被施用			焼失-G	
				(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)		
28	二次加工する前片	頁岩	7削第1箇所中端点	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B-Y	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2a+G
29	不定形石器	玉髓	7削第1箇所中端点	X	X	B-D	X	S	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
30	不定形石器	玉髓	7削第1箇所中端点	X	X	L2?	B	B	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	削小・焼失 烧失色斑
31	石核	頁岩	7削第1箇所中端点	L2(c)	L2(c)	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
32	剥片	鐵鋸目	7削第1箇所中端点	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2c+G
33	剥片	玉髓	7削第1箇所中端点	L2(c),A	L2(c)	X	B	B-Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
34	石核	純化木	7削第1箇所中端点	L2(a,c)	L2(c)	B	B	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2c+G	
35	石核	玉髓	7削第1箇所中端点	X	X	B	B	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
36	石核	頁岩	7削第2箇所中端点	A	L2(a,c)	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
37	不定形石器	純化木	7削第2箇所中端点	L2(c)	L2(c)	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
38	不定形石器	玉髓	7削第2箇所中端点	L2(c)	L2(c)	X	B	B	G	G	X	X	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	燒失色斑	
39	二次加工する前片	玉髓	7削第2箇所中端点	X	X	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
40	二次加工する前片	純化木	7削第2箇所中端点	L2(c)	L2(a)	B	B	G	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2c+G	
41	剥片	頁岩	7削第2箇所中端点	X	X	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
42	石核	純化木	7削第2箇所中端点	L2(c)	L2(c)	B	B	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2c+G	
43	石核	頁岩	7削第2箇所中端点	X	X	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
44	石核	頁岩	7削第2箇所中端点	X	L2(a)	B-Y	X	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		
45	二次加工する前片	頁岩	7削第2箇所中端点	L2(c)	L2(c)	X	B	B	G	S	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	1.2c+G		
46	圓形石器	頁岩	7削第3箇所中端点	X	X	B-Y	R	R	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	燒失色斑	
47	石核	鐵鋸目	7削第3箇所中端点	X	X	B-Y	R	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		
48	剥片	頁岩	7削第3箇所中端点	L2(c)	L2(a)	B	B	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2c+G	
49	石核	玉髓	7削第3箇所中端点	X	X	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
50	二次加工する前片	玉髓	7削第3箇所中端点	X	L2(a,c)	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
51	二次加工する前片	玉髓	7削第3箇所中端点	X	X	B	B	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	燒失色斑 両面磨削	
52	剥片	玉髓	7削第3箇所中端点	X	B?	B	B-Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
53	剥片	玉髓	7削第3箇所中端点	X	L1?	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
54	剥片	玉髓	7削第3箇所中端点	L2(a)	L2(a)	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
55	剥片	玉髓	7削第3箇所中端点	L2(c)	L2(c)	X	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	

表17 柏木遺跡石器觀察表(3)

測定番号	測定名	石 材	出上位置	鉄 分 の 性 質			材質上	生 天	壓 鋼	鐵化	二 価 ハ ド イ フ			被熱質	相手-G	備 考
				(赤)	(黒)	(赤)					(赤)	(黒)	(赤)	(黒)		
56	不定形石墨	玉鋼	7號第3集水地點	×	B+Y	B+Y					O	O	O	O		
57		玉鋼	7號第3集水地點	×	B+D	B										
58	鐵素石墨	西鋼	7號第3集水地點	×	B+Y	B+Y										加熱試片
59	-一次地にある割れ	5鋼	7號第3集水地點	×	B+Y	B										
60	測定	西鋼	7號第3集水地點	×	B+Y	B+Y										
61	測定	西鋼	7號第3集水地點	×	L2(a)	B	B+Y	B	B	B						
62	測定	西鋼	7號第3集水地點	L2(e)	L2(c)	B+Y	B	B	B	B						
63	測定	西鋼	7號第3集水地點	×	B+Y	B+Y	B	B	B	B						被熱
64	測定	5鋼	7號第3集水地點	×	B+Y	B	B+Y	B	B	B						
65	-二次地にある割れ	西鋼	7號第3集水地點	×	L27	B	B	B	B	B						
66		玉鋼	7號第3集水地點	×	B+Y	B+Y	B	B	B	B						
67	-一次地にある割れ	西鋼	7號第4集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G
68	-一次地にある割れ	鐵素石墨	7號第4集水地點	L2(a,c)	L2-AcB	B	B	B	B	B						L2c+G
69		鐵素石墨	7號第4集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	B+Y	B+Y	B+Y	B+Y						L2c+G
70	不定形石墨	西鋼	7號第4集水地點	L2(a,c)	B+Y	B+Y	G	G	G	G						L2c+G
71	不定形石墨	西鋼	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	B+Y	G	G	G	G					L2c+G
72	-二次地にある割れ	鐵素石墨	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G
73	不定形石墨	西鋼	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G
74	不定形石墨	鐵素石墨	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	B+Y	G	G	G	G					L2c+G
75	不定形石墨	西鋼	7號第5集水地點	×	X	B	B	B	B	B						
76	不定形石墨	西鋼	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						
77	測定	西鋼	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G
78	測定	井筒鉄骨	7號第5集水地點	L2(c)	A2	B+Y	B+Y	G	G	G	G					被熱
79	測定	井筒鉄骨	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G
80	測定	鐵素石墨	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G
81	-二次地にある割れ	西鋼	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G
82	測定	井筒鉄骨	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G
83	-二次地にある割れ	鐵素石墨	7號第5集水地點	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	B	B						L2c+G

表18 柏木遺跡石器観察表(4)

番号	器種名	石材	出土部位	鉄分の付着			研磨土			キサ			摩滅風化			二重 バナナフ			修正判別			施用歴			備考		
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)	(M)	(N)	(O)	(P)	(Q)	(R)	(S)	(T)	(U)	(V)	(W)	
84	刮削	石英	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B	X	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G+G
85	刮削	珪質岩	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	X	X	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G
86	刮削	珪質岩	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)+A	B+Y	B	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G
87	刮削	珪質岩	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G
88	石鏨	矽質岩	7層第5箇中間点	L2(c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B	X	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G
89	刮削	燧狀石	7層第5箇中間点	L2(c)+B	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	B	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G
90	刮削	珪質岩	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(c)	L2(c)	B	B	X	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		
91	不定形石器	石器	7層第5箇中間点外	L2(c)	L2(c)	L2(c)	B	X	R	R	X	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	施用	
92	石鏨	玉髓	7層第5箇中間点外	X	L2(a)	L2(a)	B	B	X	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		
93	二次加工する削片	珪質岩	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	B	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G
94	刮削	玉髓	7層第5箇中間点	X	B	B+Y	B	B	B	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		
95	刮削	玉髓	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B	Y?	G	S	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G
96	二次加工する削片	石英	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B	B	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G
97	石鏨	玉髓	7層第5箇中間点	L27	X	B+Y?	B+Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		
98	不定形石器	燧狀石	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	Y	R	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			
99	二次加工する削片	玉髓	7層第5箇中間点	X	L2(c)	L2(c)	B+Y	B	S	X	X	X	X	X	X	X	O	O	X	X	O	O	O	O	施用毛面		
100	二次加工する削片	燧狀石	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	B	L+G	L	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G	
101	二次加工する削片	石英	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	B+Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e+G	1.2e+G	
102	石鏨	玉髓	7層第5箇中間点	X	X	B	B	R	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O	施用毛面	
103	石鏨	碧玉	7層第5箇中間点	X	X	B+Y	B+Y	G	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	X	X	X	X	X	X	X		
104	不定形石器	燧狀石	7層第5箇中間点	X	X	B+Y	B+Y	L+G	X	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			
105	二次加工する削片	玉髓	7層第5箇中間点	X	X	B+Y	B+Y	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	C7	施用?	
106	二次加工する削片	碧玉	7層第5箇中間点	L2(c)	L2(c)	L2(c)	B	B	R	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	1.2e+G	施用	
107	不定形石器	碧玉	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(a,c)	L2(a,c)	B+Y	G	S	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			
108	不定形石器	石英	7層第5箇中間点	X	X	B+Y	B+Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			
109	二次加工する削片	燧狀石	7層第5箇中間点	L2(a)	L2(a)	L2(a)	B+Y	B	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			
110	不定形石器	燧狀石	7層第5箇中間点	L2(a,c)	L2(c)	L2(c)	B	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		へら状毛面の基盤か?	
111	刮削	燧狀石	7層第5箇中間点外	L2(c)	X	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			

表(5) 柏木遺跡石器觀察表

表20 柏木遺跡石器観察表(6)

番号	器種名	石材	出土部位	鉄分の付着				珪質土				キズ				摩滅				風化				二重 バナナフ				修正剖面				被覆G				備考			
				(R)	(B)	(A)	(M)	(R)	(B)	(A)	(M)	(R)	(B)	(A)	(M)	(R)	(B)	(A)	(M)	(R)	(B)	(A)	(M)	(R)	(B)	(A)	(M)	(R)	(B)	(A)	(M)								
140	刃片	玉髓	土壤	x	x	y	D+Y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
141	二次加工される剥片	玉髓	土壤	x	x	y	(D)+Y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
142	刃片	玉髓	土壤	x	x	y	B	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
143	刃片	玉髓	土壤	x	x	移動<?	Y	b	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x					
144	刃片	玉髓	土壤	x	x	D+Y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x					
145	二次加工される剥片	玉髓	土壤	x	x	B+移<?	Y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x					
146	刃片	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
147	チップ	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
148	チップ	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
149	刃片	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
150	二次加工される剥片	玉髓	土壤	x	x	y	D+Y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
151	刃片	玉髓	土壤	x	x	移動<?	x	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
152	刃片	玉髓	土壤	x	x	移動<?	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
153	刃片	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
154	刃片	玉髓	土壤	x	x	移動<?	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
155	刃片	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
156	チップ	玉髓	土壤	x	x	移動<?	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
157	チップ	玉髓	土壤	x	x	移動<?	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
158	刃片	玉髓	土壤	x	x	B	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
159	チップ	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
160	刃片	玉髓	土壤	x	x	移動<?	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
161	チップ	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
162	刃片	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
163	チップ	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
164	刃片	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
165	チップ	玉髓	土壤	x	x	移動<?	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
166	チップ	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
167	チップ	玉髓	土壤	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x				

表21 柏木遺跡石器器形表(7)

番号	器皿名	石 材	出土位置	鉄 分 の 付 面				付 面				手 灰				磨 滑				二 用				研 磨				被 烈				研 磨					
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)	(M)	(N)	(O)	(P)	(Q)	(R)	(S)	(T)	(U)	(V)	(W)	(X)	(Y)	(Z)	(AA)	(BB)	(CC)	(DD)	(EE)	(FF)	(GG)	(HH)
168	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
169	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
170	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
171	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
172	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
173	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
174	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
175	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
176	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
177	剥片	玉髓	土塹1	L1	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
178	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
179	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
180	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
181	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
182	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
183	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
184	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
185	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
186	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
187	剥片(表面をむき取る剥片)	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
188	二次加工した剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
189	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
190	二次加工した剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
191	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
192	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
193	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
194	チャツ	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
195	剥片	玉髓	土塹1	x	x	y	y	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

表22 柏木遺跡石器調査表(8)

番号	器種名	石材	出土部位	鉄分の付着			珪質土			粘土			灰化			二級 バナナ			修正剖面			地質-G	
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)	(M)	(N)	(O)	(P)	(Q)	(R)	(S)	
196	刮削器	玉髓	土壌	×	×	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	X
197	チャップ	玉髓	土壌	移動少	×	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	X
198	刮削器	瑪瑙石	3次地表面	×	Y	B-Y	G	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	X
199	不定形石器	珪質岩	部位不明	L2(a)	1.2(a,c)	D	D	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e-G
200	刮削器	珪質岩	3層	×	1.1-B	Y	Y	G	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
201	二次地(土なる)削片	珪質岩	表土	B	B	Y	Y	H	H	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
202	二次地(土なる)削片	瑪瑙石	4層	L2(a)	1.2(a)	Y	Y	R	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
203	刮削器	玉髓	谷壁土	L2(a,c)	1.2(a,c)	B	B	G	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
204	不定形石器	玉髓	谷壁土	1.27	1.27	B-Y	G	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
205	二次地(土なる)削片	玉髓	谷壁土	L2(a,c)	1.2(a,c)	B-Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
206	不定形石器	珪質岩	谷壁土	L2(a,c)	1.2(a,c)	B	B	G	G	O	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
207	石器	珪質岩	谷壁土	L2(a)	Y	Y	G	G	O	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
208	圓形石器	珪質岩	谷壁土	L2(c)	Y	B-D	B-D	X	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	
209	二次地(土なる)削片	瑪瑙石	2層	×	Y	Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
210	二次地(土なる)削片	珪質岩	3層	Y	A	Y	Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
211	刮削器	珪質岩	表土	L2(c)	1.2(c)	Y	D-Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
212	不定形石器	玉髓	不規	L2(c)	1.2(c)	D-Y	D	X	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	
213	刮削器	珪質岩	2層	Y	1.2(a,c)	Y	Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
214	不定形石器	珪質岩	3層	L2(c)	1.2(a,c)	Y	Y	G	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1.2e-G	
215	石器	珪質岩	表土	Y	Y	Y	Y	R	R	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	
216	刮削器	珪質岩	表土	A?	A?	Y	Y	R	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
217	石器	珪質岩	表土	L2(c)	A	D	D	G	G	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	
218	石器	玉髓	不規	Y	Y	Y	Y	X	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	
219	二次地(土なる)削片	碧玉	不規	Y	Y	Y	Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
220	刮削器	玉髓	3層	Y	Y	D-D	R	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
221	石器	珪質岩	不規	Y	Y	B	B	X	X	X	X	X	X	X	X	O	O	O	O	O	O	O	
222	刮削器	瑪瑙石	不規	Y	Y	Y	Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
223	刮削器	瑪瑙石	不規	L2(c)	1.17	Y	Y	G	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	

表23 柏木遺跡石器觀察表(9)

番号	層相名	石種	出土部位	鉱分の特徴		柱状土	土性	層厚	風化	二重 バナナイチ		柱状G	地質G
				(A)	(B)					(C)	(D)		
224	二次加工ある層片	珪藻質岩	不明	X	X	DorY	X	X	X	X	X	X	X
225	石板	珪藻質岩	不明	L2(c)	X	Y	G	X	X	X	X	X	X
226	砂岩	凝灰岩	不明	L1?	X	DorY	X	O	O	O	O	X	X
227	砂岩	細粒砂岩	表土	X	X	Y	Y	O	O	O	O	X	X
228	石板	珪藻質岩	不明	A	A	Y	Y	X	X	X	O	X	X
229	石板	珪藻質岩	不明	X	X	Y	X	X	X	X	O	X	X
230	石板	玉髓	L1	L1	DorY	X	X	X	X	O	O	X	X
231	石塊	珪藻質岩	不明	L2(c)	Y	Y	R	X	X	O	O	X	X
232	測定	珪藻質岩	不明	L2(a)	Y	Y	R	X	X	X	X	X	X
233	石塊	珪藻質岩	表土	X	X	Y	G	X	X	O	O	X	X
234	二次加工ある層片	珪藻質岩	不明	X	1.2(m)	Y	Y	X	X	X	X	X	X
235	測定	珪藻質岩	不明	X	X	Y	Y	X	R	X	X	X	X



1 褐鉄鉱 (L2a) No,71



2 褐鉄鉱 (L2c) No,67



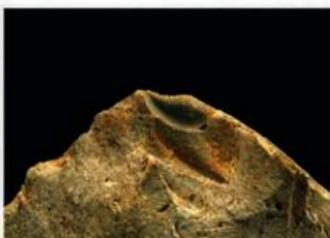
3 ローム土 (Y) No,58



4 褐灰色土 (D) No,13



5 黒色土 (B) No,92



6 キズ (ガジリ) G No,68



7 キズ (ガジリ) L No,103



8 磨耗 No,68

写真図版1 石器にみられる様々な痕跡(1)

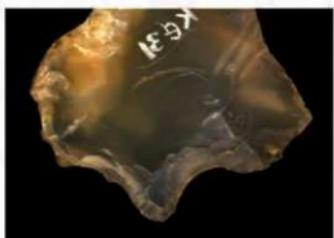
3・4・7 志引遺跡  
1・2・5・6・8 柏木遺跡



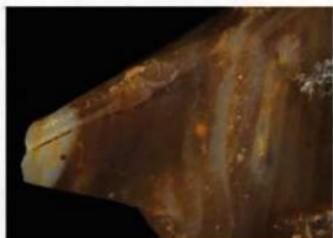
1 被熱（火ハネ） No.31



2 被熱（加熱処理） No.8



3 押圧剥離 No.102



4 褐鉄鉱 L2 ? (薄いサビ状) No.128



5 褐鉄鉱モヤ状付着 (A) No.14



6 褐鉄鉱ベタ状付着 (C) No.65



7 褐鉄鉱ドット状付着 (B) No.136



8 実験石器 褐鉄鉱モヤ状付着 (A)

写真図版2 石器にみられる様々な痕跡(2)

1~5~7 志引遺跡

2~4 柏木遺跡



1 第7石器集中地点(9層上面) 第16図9



2 第7石器集中地点(9層上面) 第15図2



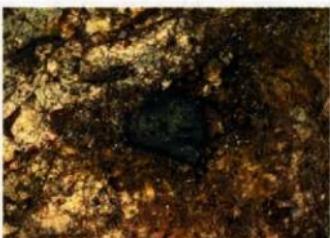
3 第7石器集中地点(9層上面) 第16図11



4 第8石器集中地点(9層上面)



5 第7石器集中地点(9層上面)



6 No. 6(7層上面)



7 No. 8、18、19、28~30(7層上面)



8 第1石器集中地点(7層上面)

写真図版3 志引・柏木遺跡の石器出土状況

1~5志引遺跡  
6~8柏木遺跡

## 凡 例

### 1. 褐鉄鉱

 (実測図表記色)

- A : モヤ様 全体にムラなく付着 (自然)
- B : ドット様 細粒の点～班点状に付着 (自然)
- C : ベタ様 やや厚く糊状に付着 (自然)
- L1 : ライン様 自然の状態で生じる不規則な曲線ないし幅広の線条付着
- L2 : ライン様 金属との接触によって人工的に生じる暗黒褐色条痕
  - L2 (a) : 剥離面に直線状に生じるライン様  
(農耕器具の刃が石器に対し垂直方向に近い角度で接触したと推定されるもの)
  - L2 (c) : 剥離面凸部 (稜線上等) に生じるライン様2  
(農耕器具の刃が石器に対し水平方向に近い角度で接触したと推定されるもの)

### 2. 黒色物付着

 (実測図表記色)

- B : 黒色土
- D : 褐灰色土 黒色土ともロームとも違う褐色土
- Y : ローム土 黄色～赤褐色ローム

### 3. キズ (ガジリ)

 (実測図表記色)

- G : 剥離痕あり
- L : 線状のキズ
- g : 微細な剥離痕 (生じた時期が不明確なもの)

### 4. 摩滅

 (実測図表記色)

- : 顕著

### 5. 風化

- : 顕著に風化がみられるもの (流紋岩や凝灰岩など)

### 6. 2重バティナ

 (実測図表記色)

- : 有り

### 7. 押圧剥離

- : 押圧技法による剥離痕跡をもつもの

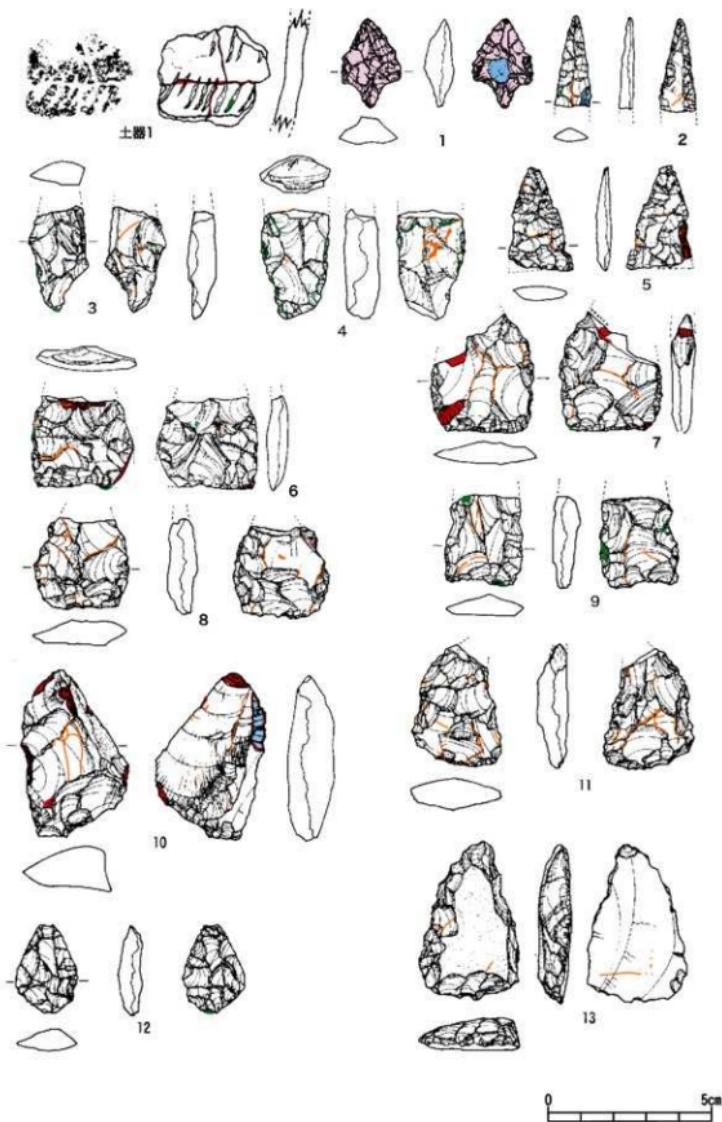
### 8. 被熱痕

 (実測図表記色)

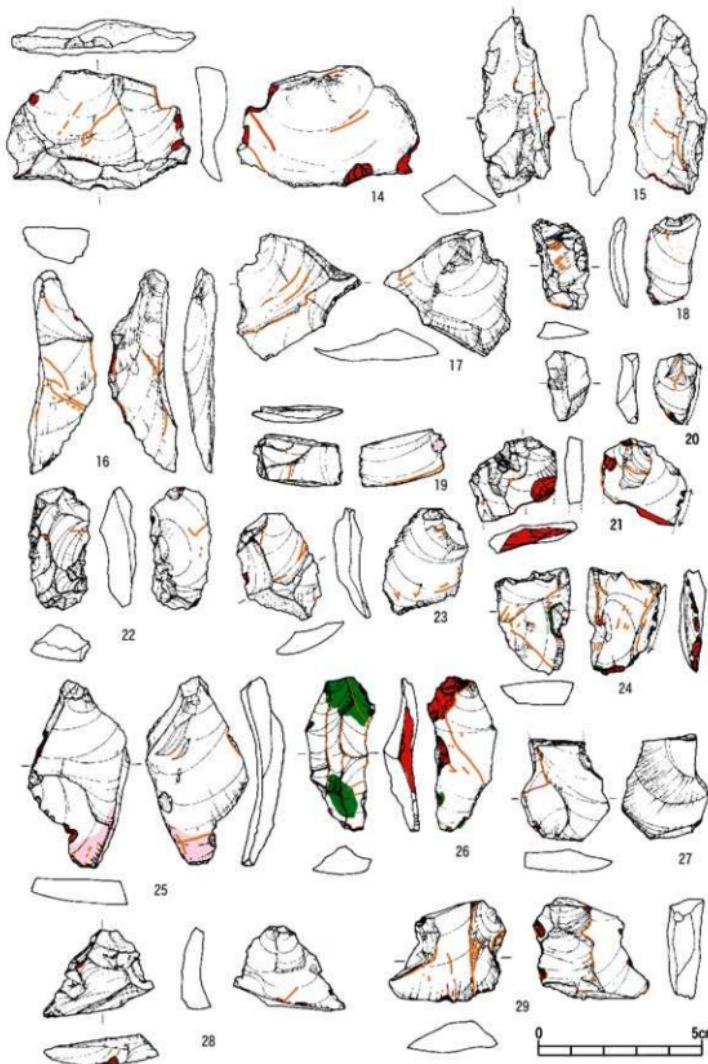
- : 被熱により赤色化やひび割れ、焼けハジケが観察されるもの

\*どちらとも判断のつかないものに関しては「?」を付した。

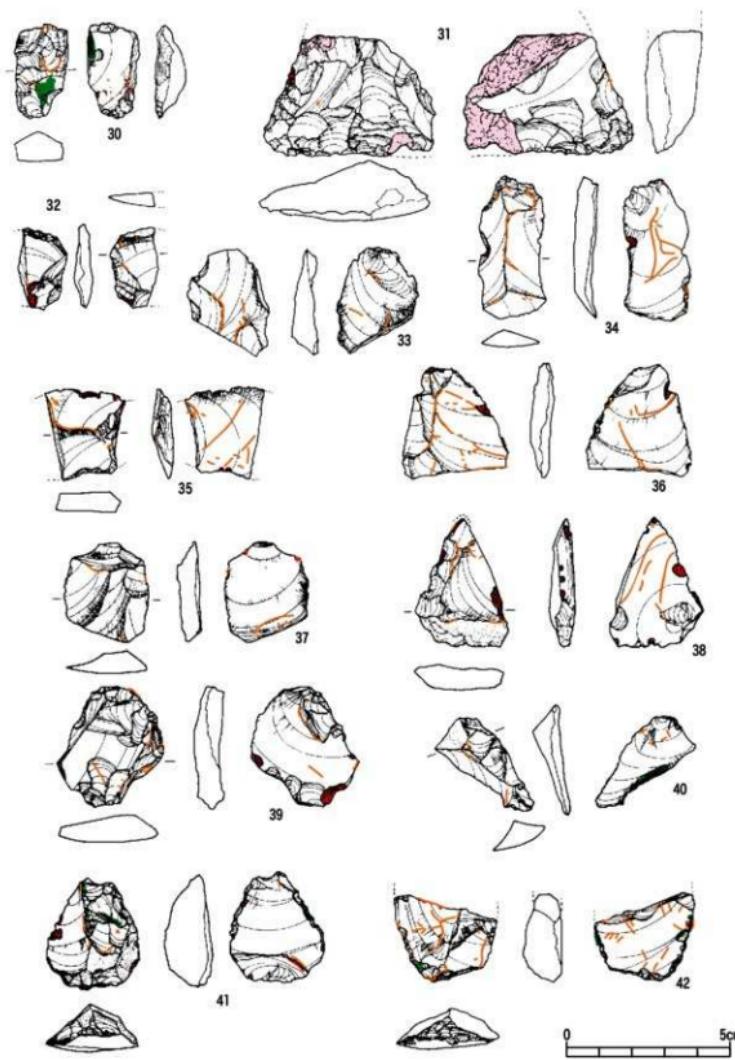
\*その他に特記すべきものについては備考欄に別途記載した。



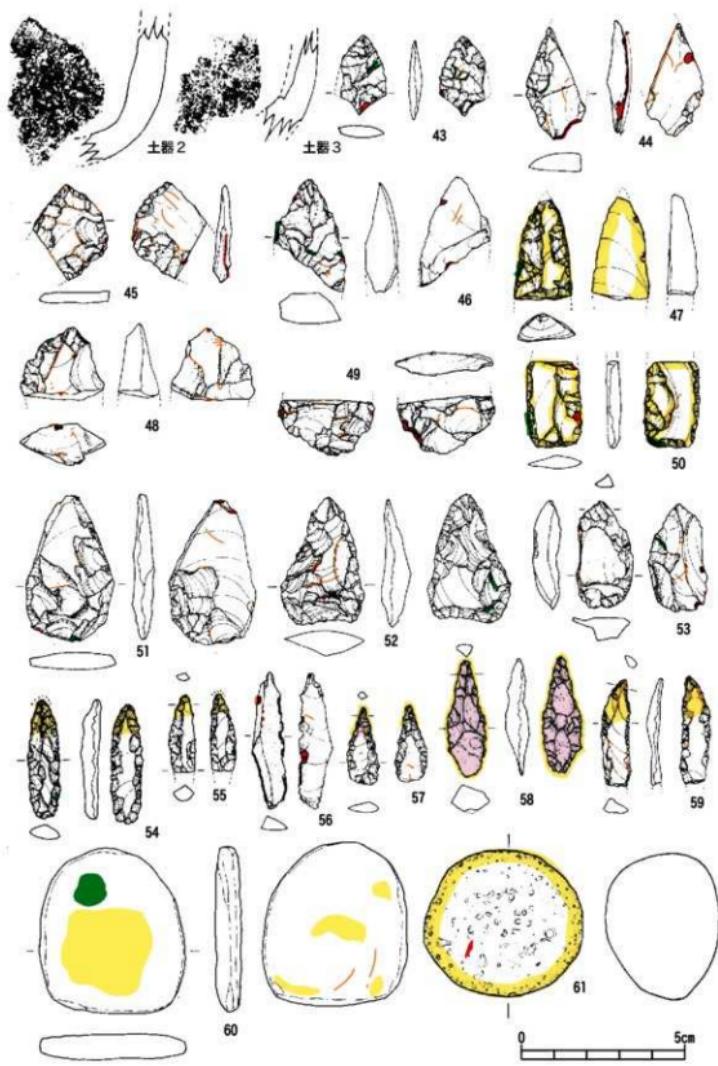
第4図 志引遺跡3層上面 第1遺物集中地点出土遺物(1)



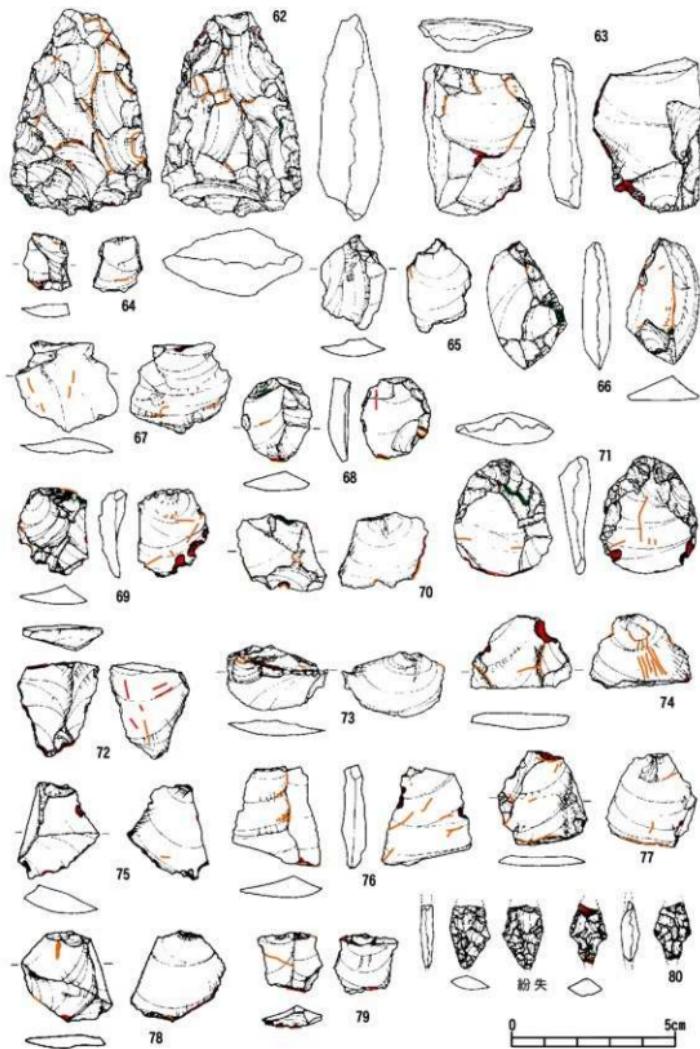
第5図 志引遺跡3層上面 第1遺物集中地点出土石器(2)



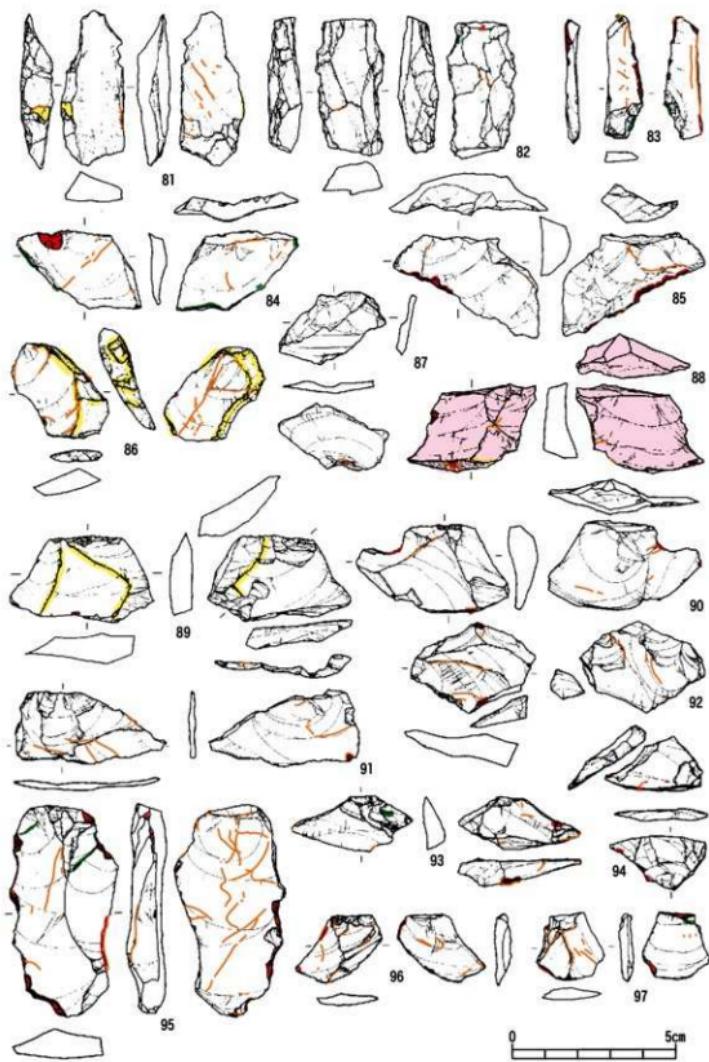
第6図 志引遺跡3層上面 第1遺物集中地点出土石器(3)



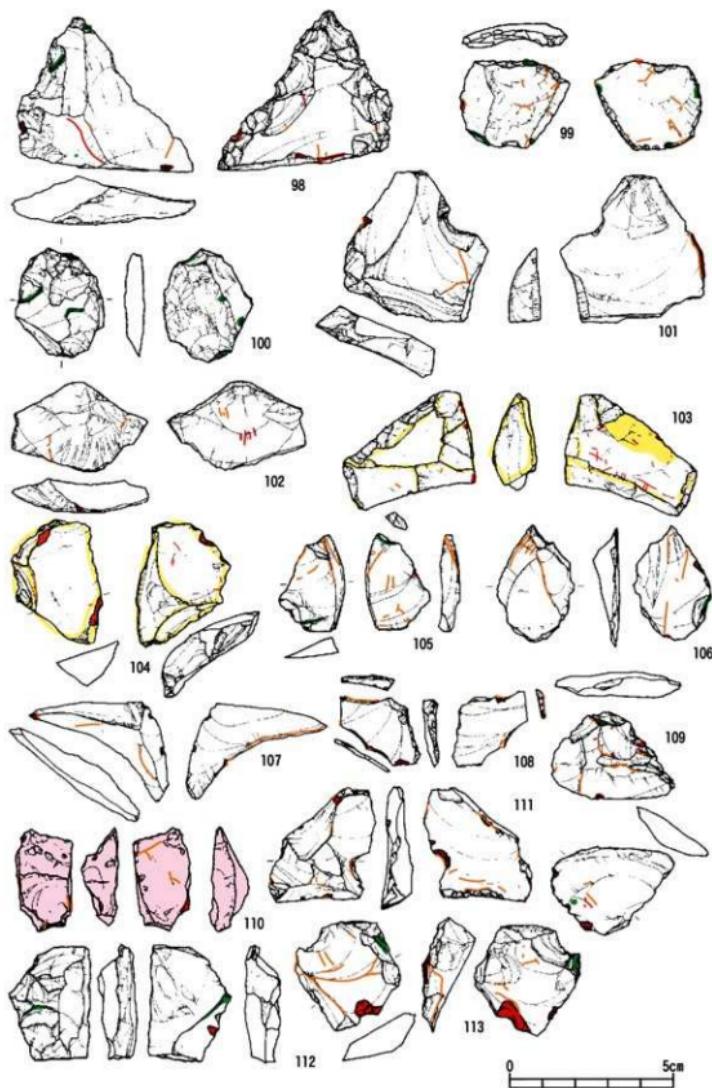
第7図 志引遺跡 溝Ⅰ埋土最上層出土遺物(1)



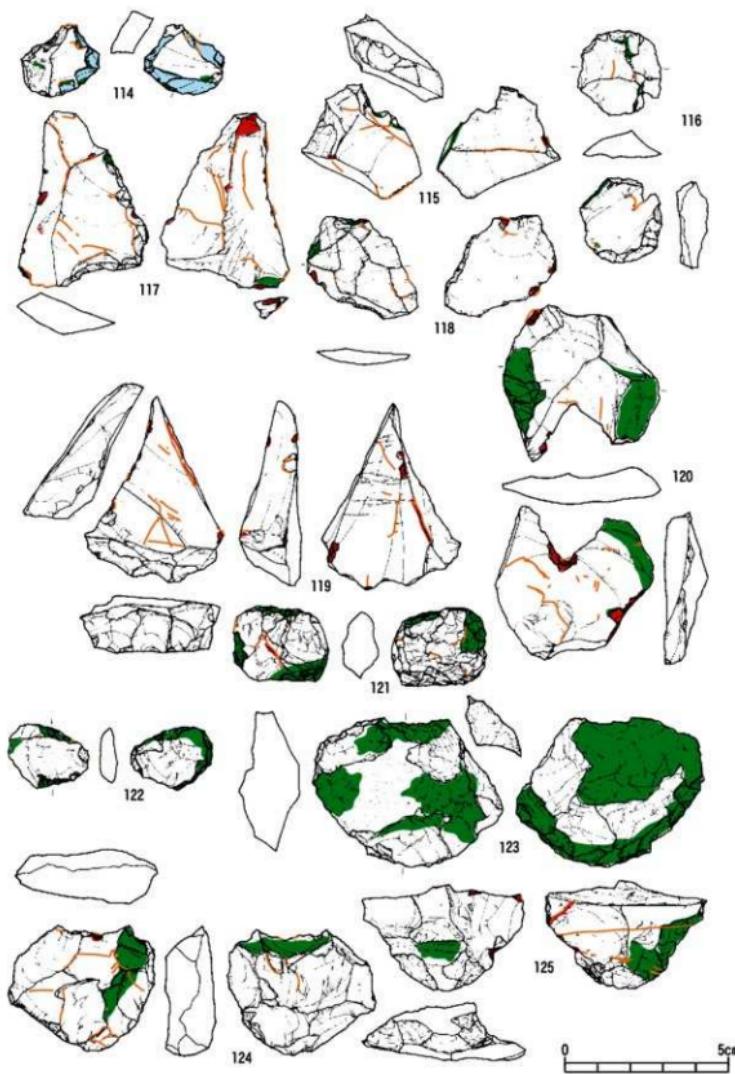
第8図 志引遺跡 溝Ⅰ埋土最上層(2)・表土(80)出土石器



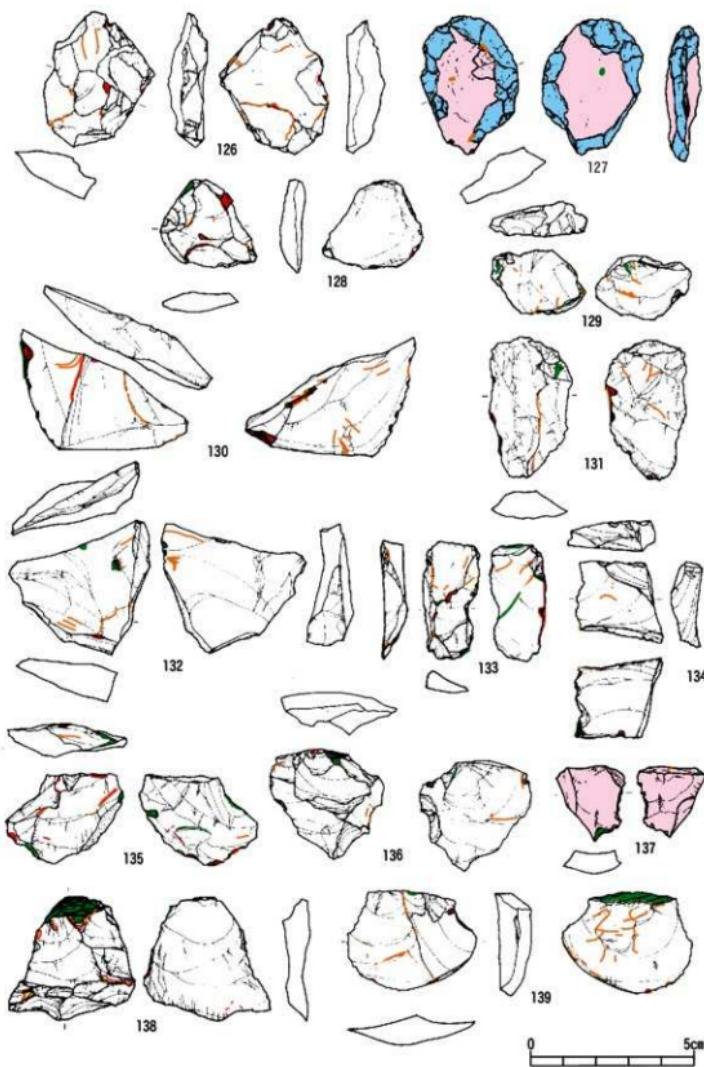
第9図 志引遺跡 4層上面出土石器



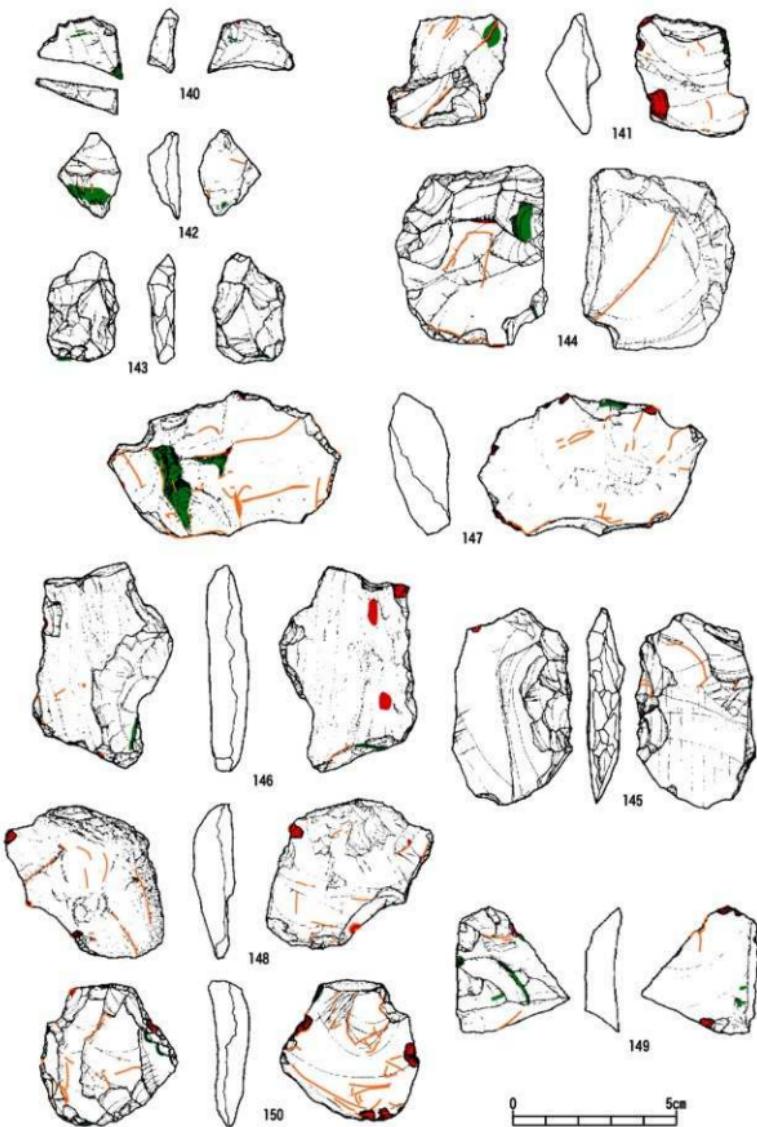
第10図 志引遺跡 7層上面第4遺物集中地点出土石器 (98~103)  
8層上面第6遺物集中地点出土石器 (104~113)



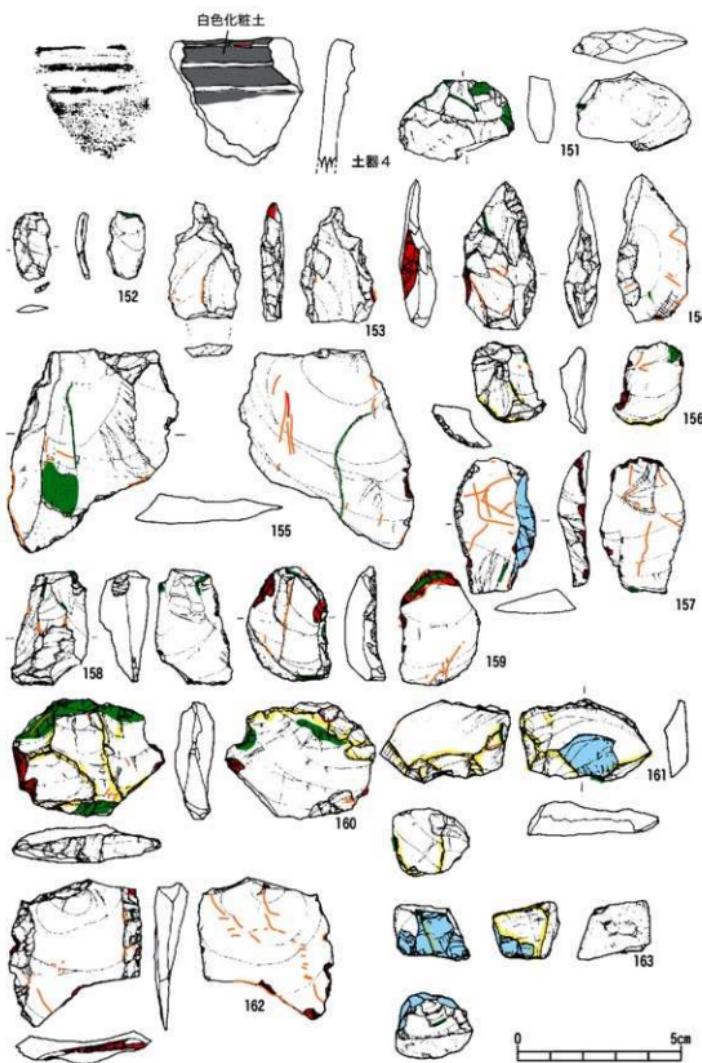
第11図 志引遺跡 8層上面第5遺物集中地点出土石器(1)



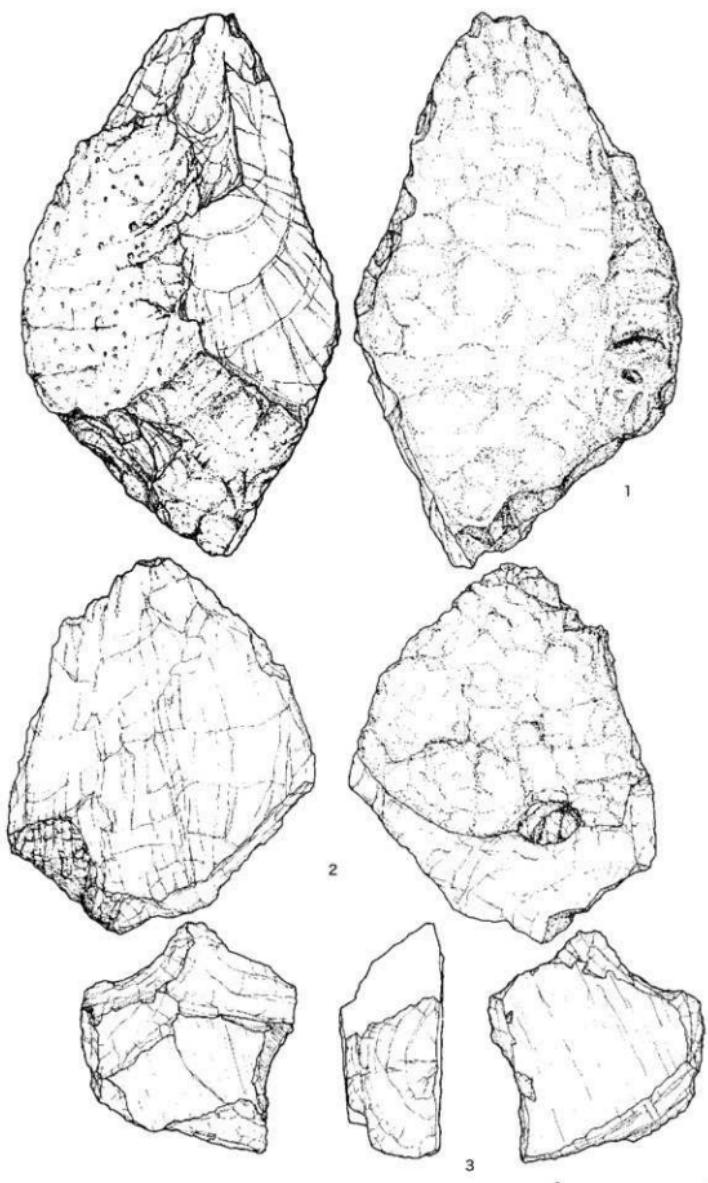
第12図 志引遺跡 8層上面第5遺物集中地点出土石器(2)



第13図 志引遺跡 9層上面第7遺物集中地点出土石器 (140~142)  
第8遺物集中地点出土石器 (143~150)

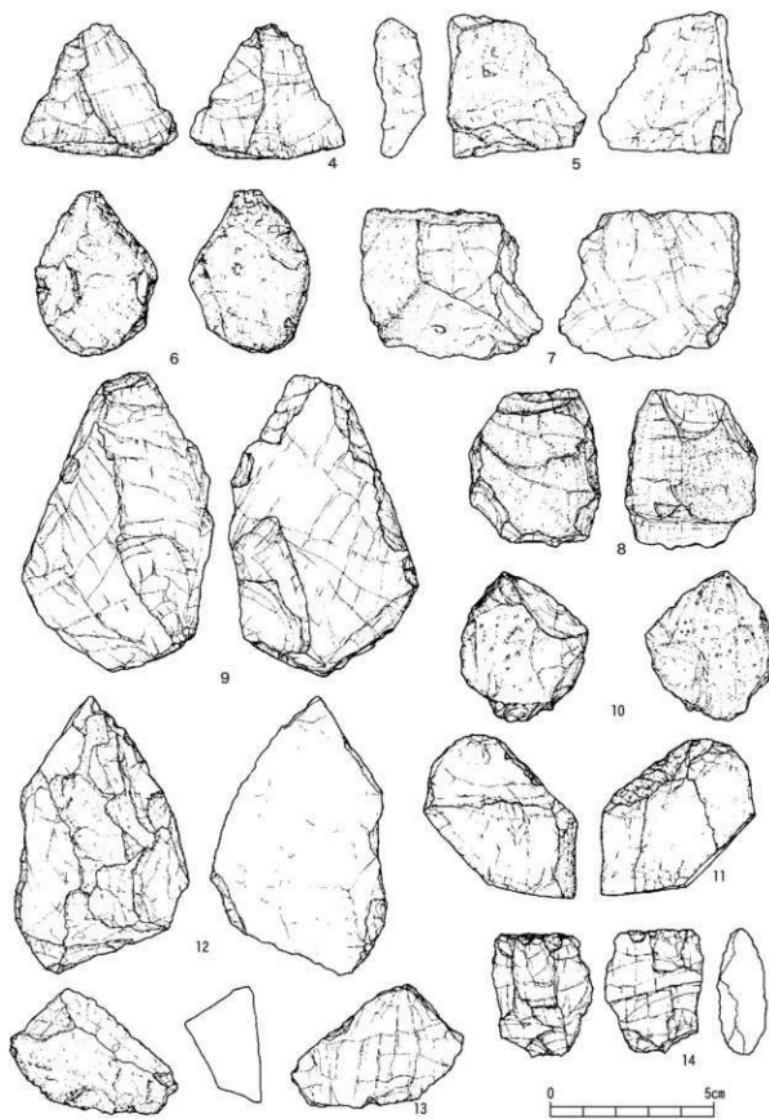


第14図 志引遺跡 道路断面採取遺物

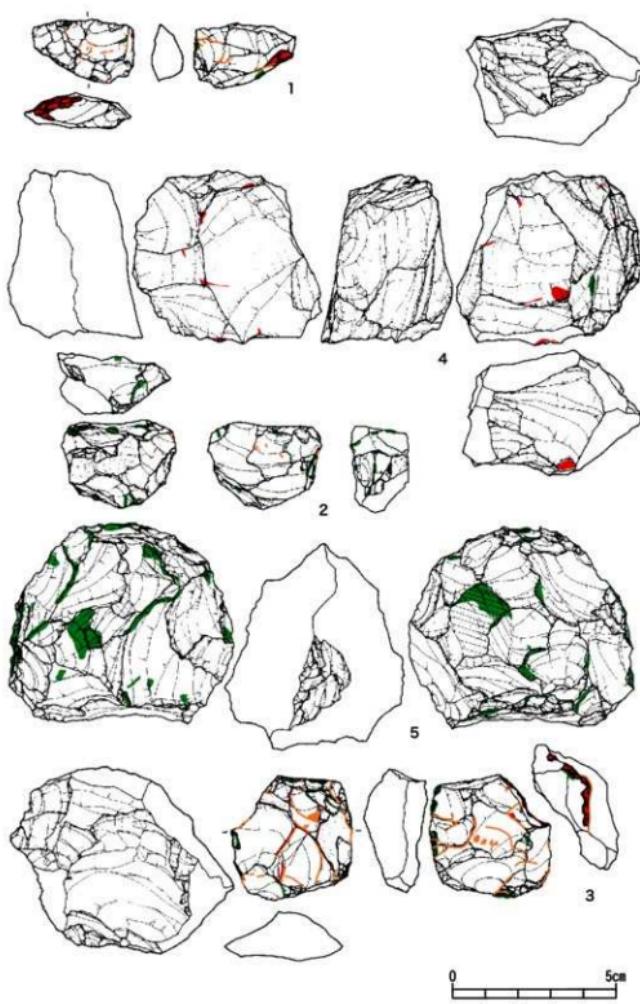


第15図 志引遺跡 9層上面第7遺物集中地点

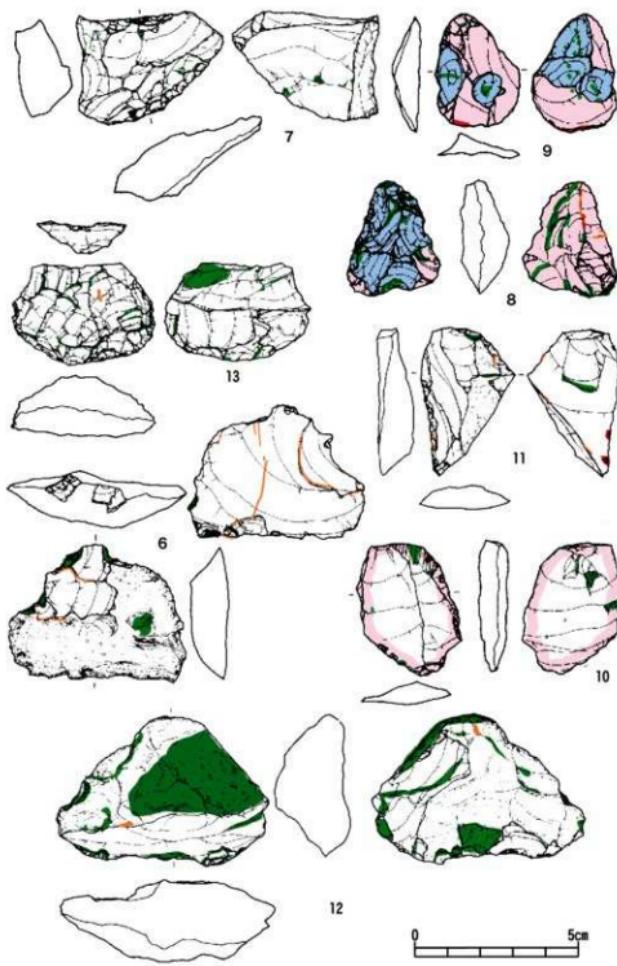
0 5cm



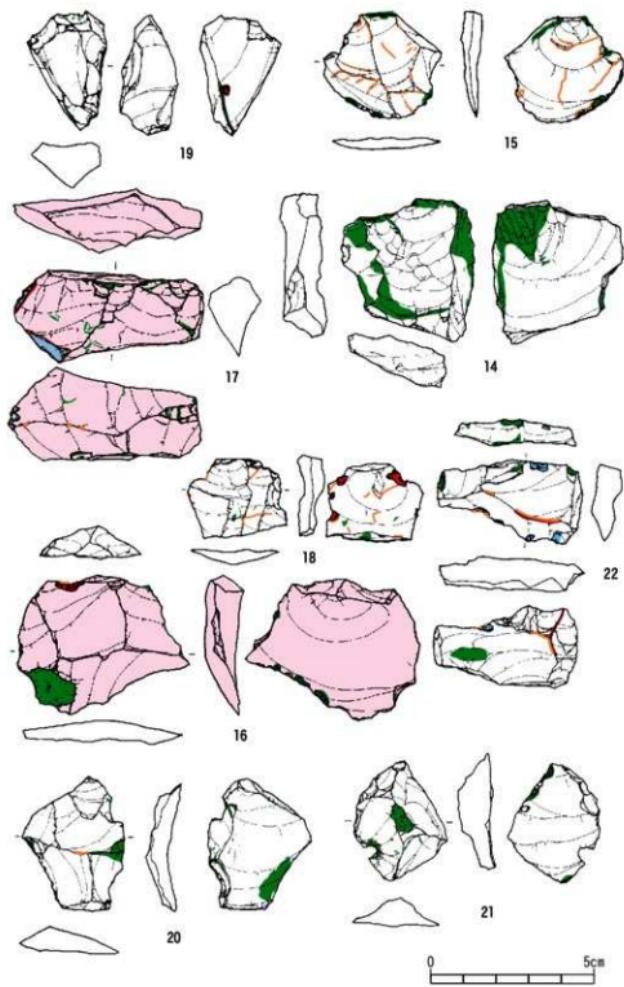
第16図 志引遺跡 9層上面第7・8遺物集中地点



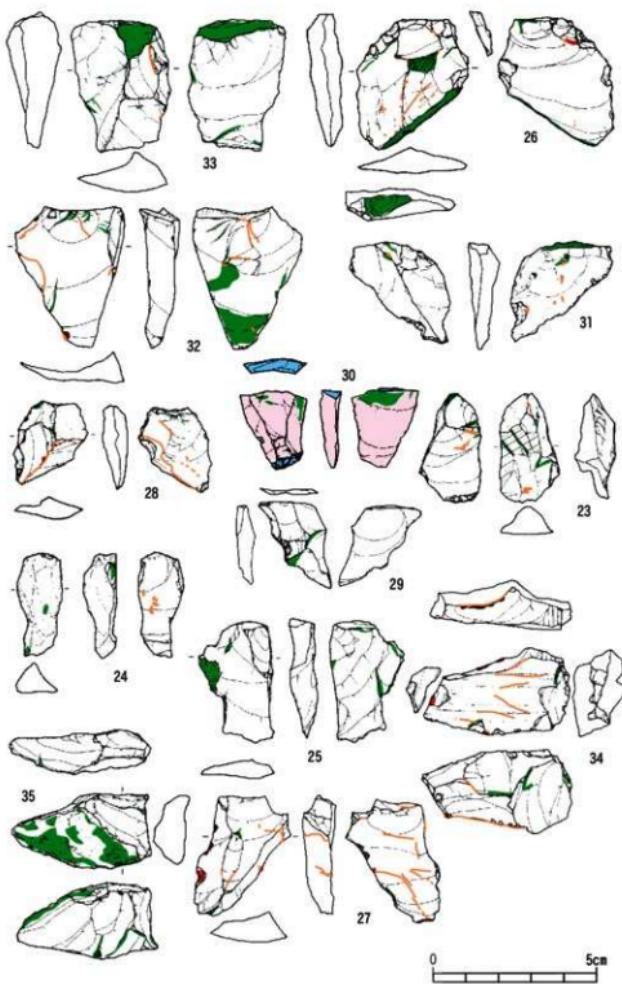
第17図 柏木遺跡 7層上面第1遺物集中地点出土石器(1)



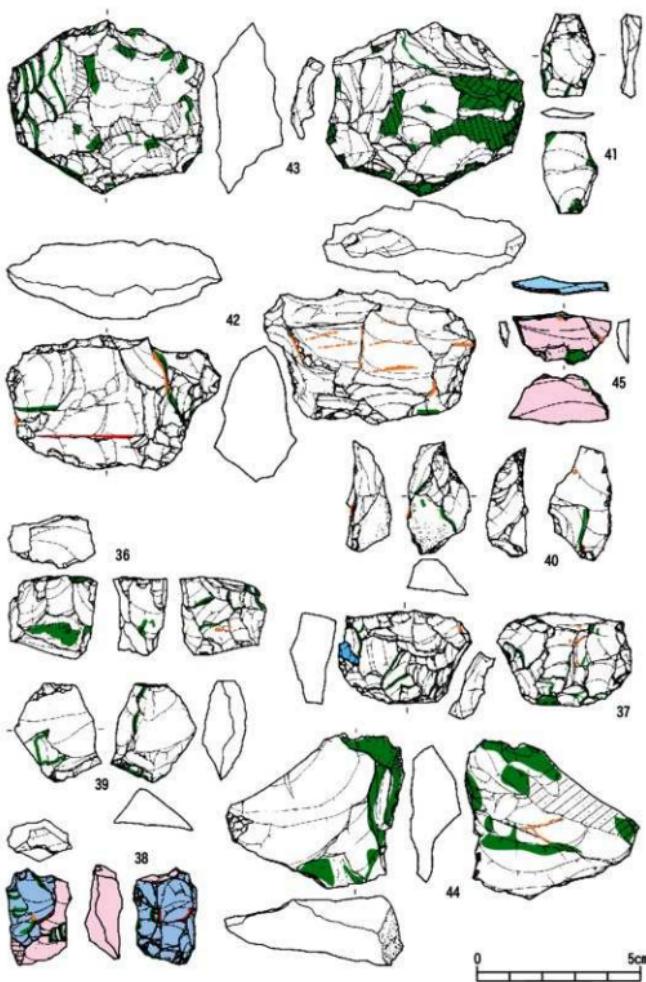
第18図 柏木遺跡 7層上面第1遺物集中地点出土石器(2)



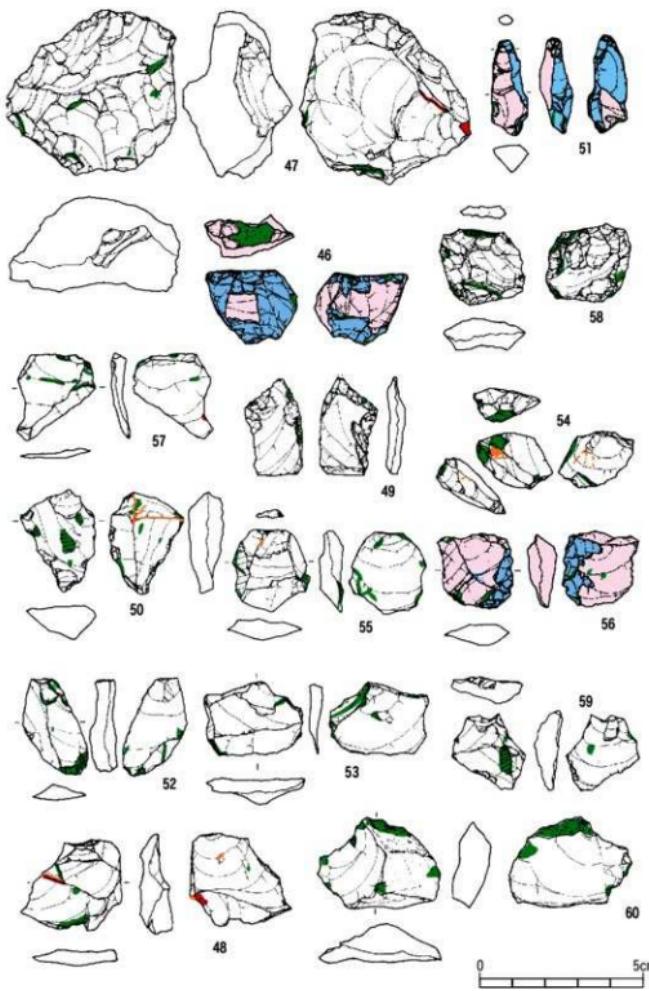
第19図 柏木遺跡 7層上面第1遺物集中地点出土石器(3)



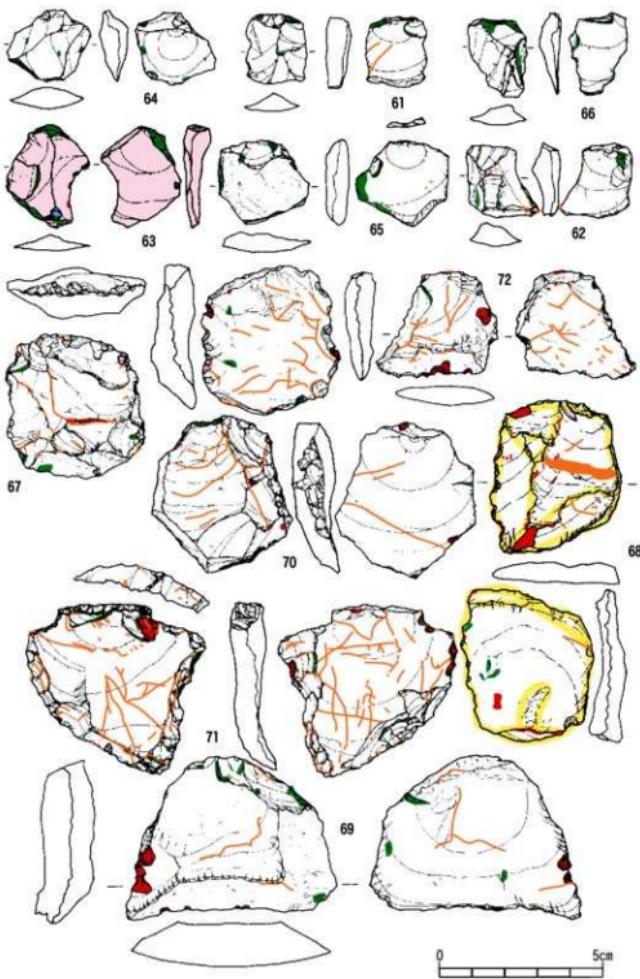
第20図 柏木遺跡 7層上面第1遺物集中地点出土石器(4)



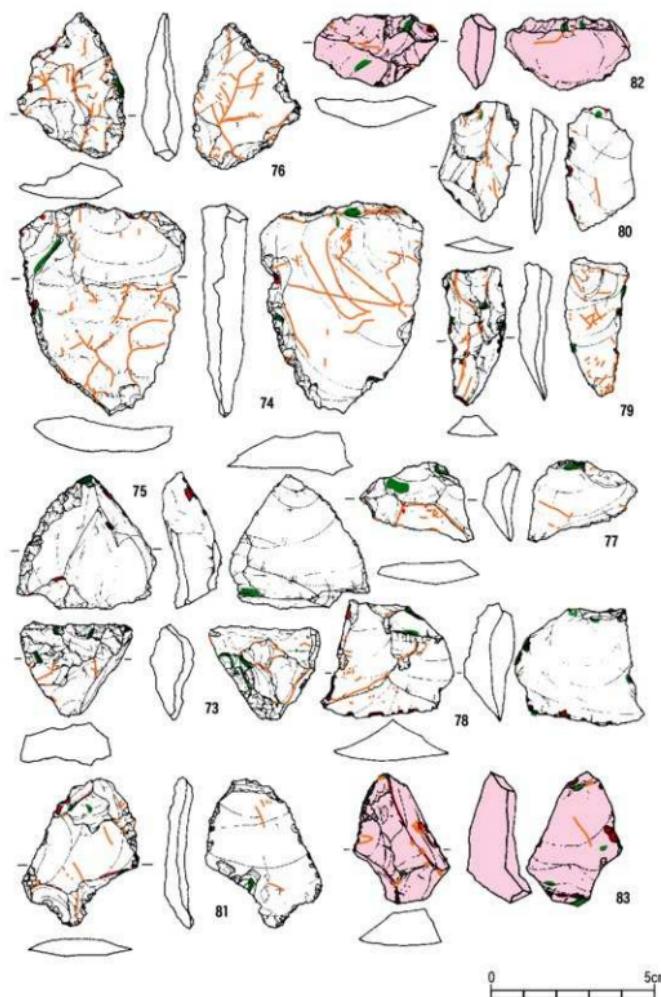
第21図 柏木遺跡 7層上面第2遺物集中地点出土石器



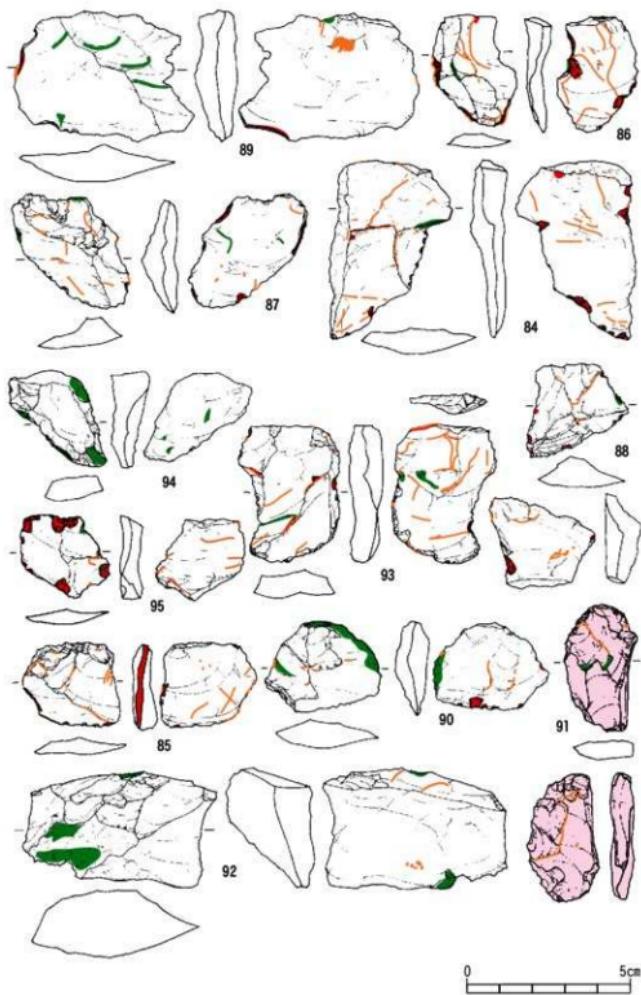
第22図 柏木遺跡 7層上面第3遺物集中地点出土石器(1)



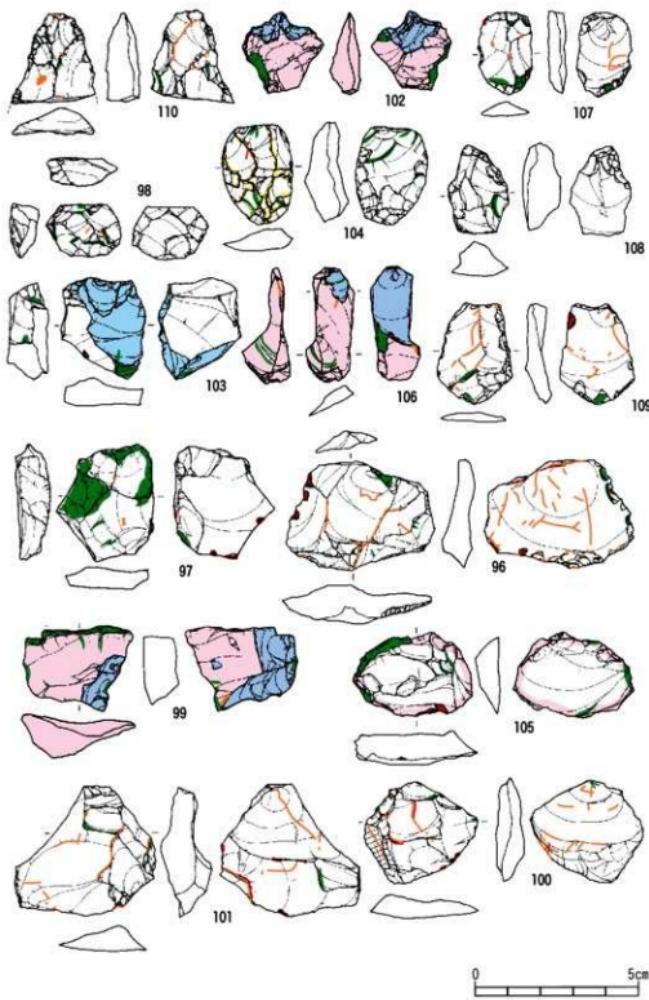
第23図 柏木遺跡 7層上面第3遺物集中地点出土石器(2)上2段  
第4遺物集中地点出土石器 (67~72)



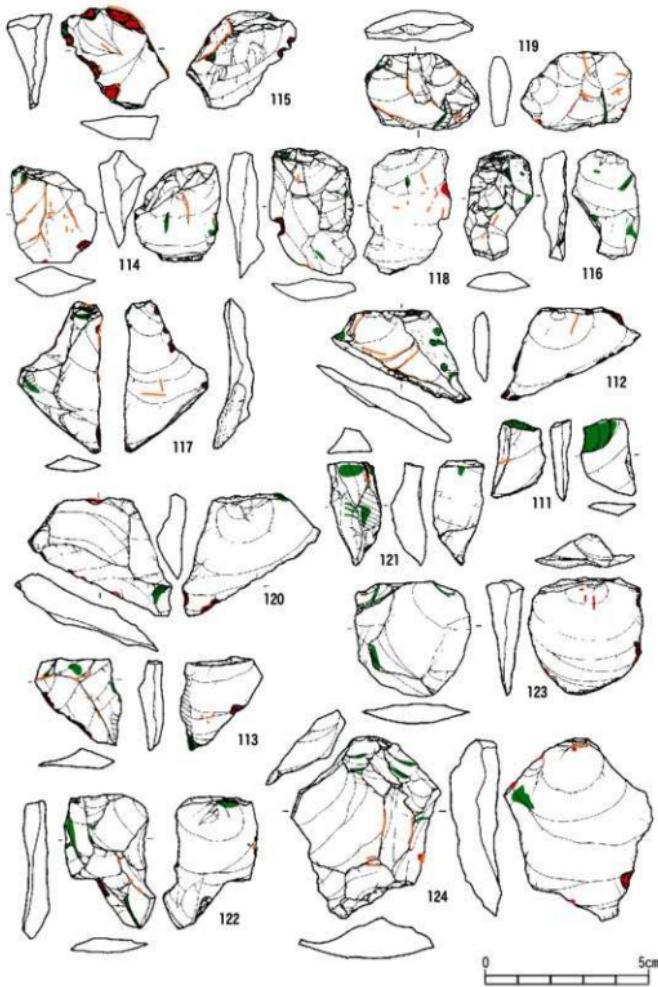
第24図 柏木遺跡 7層上面第5遺物集中地点出土石器(1)



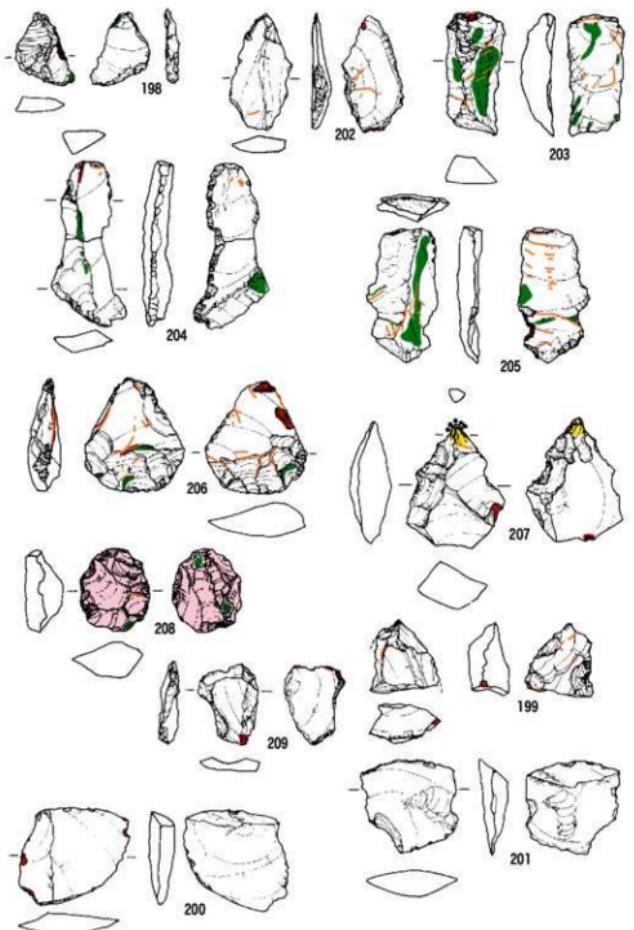
第25図 柏木遺跡 7層上面第5遺物集中地点出土石器ほか(2)



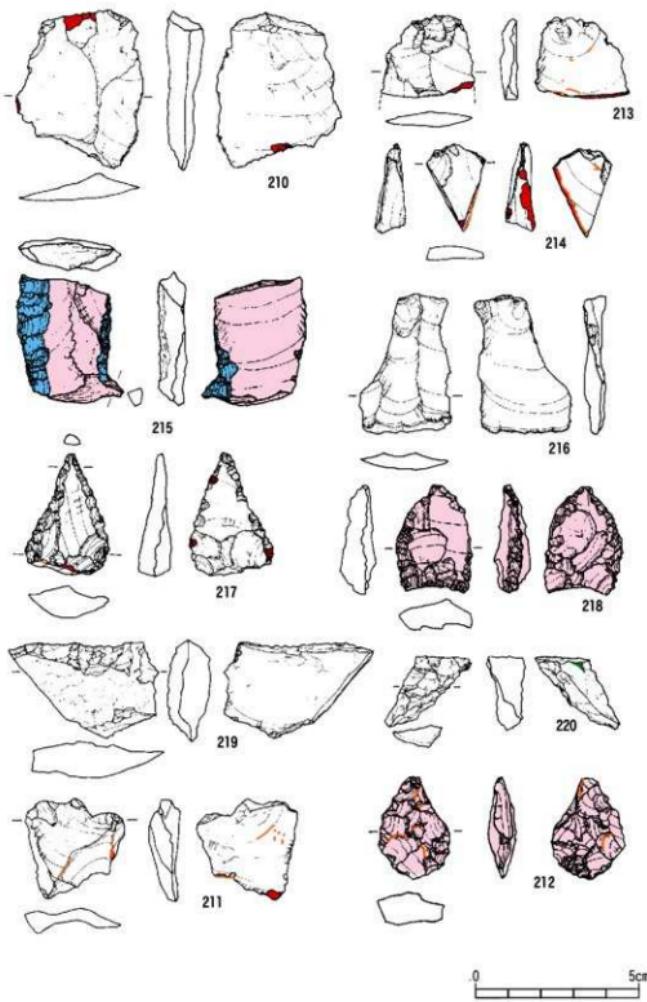
第26図 柏木遺跡 7層上面第5遺物集中地点出土石器(3)



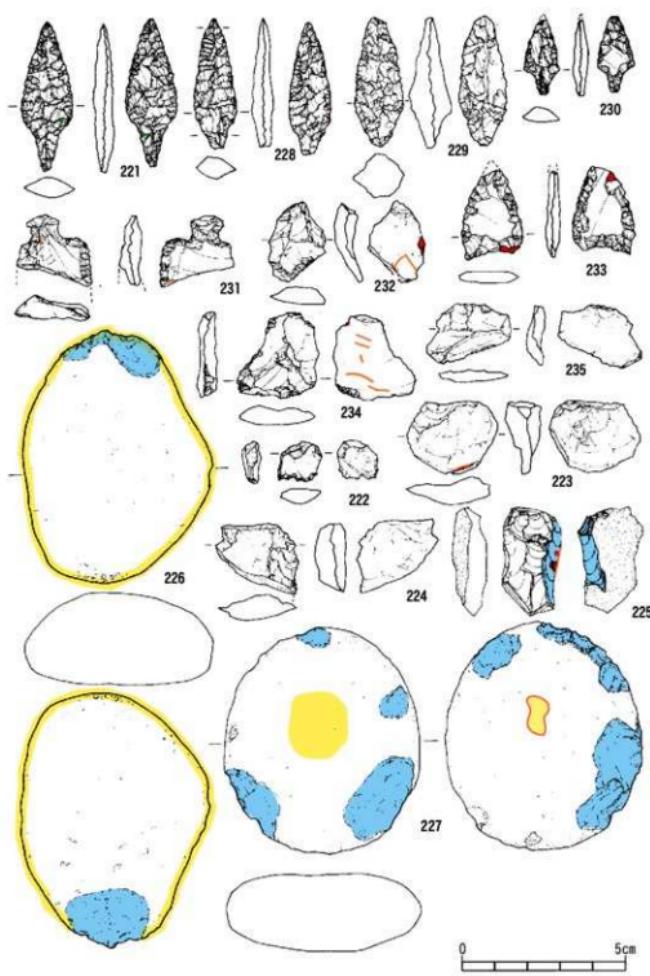
第27図 柏木遺跡 7層上面第5遺物集中地点出土石器ほか(4)



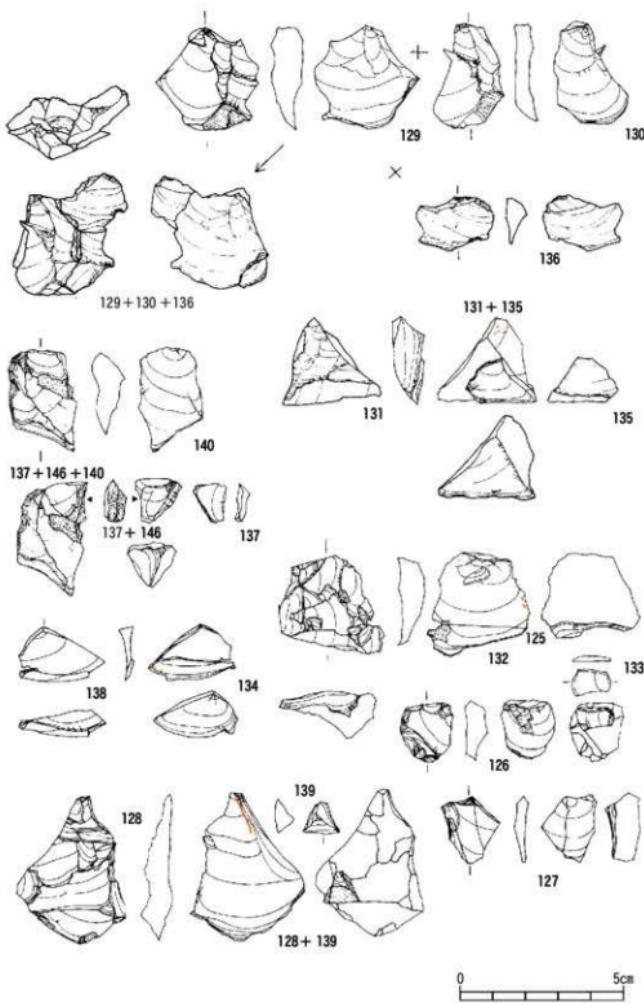
第28図 柏木遺跡 各地区出土の石器(1)



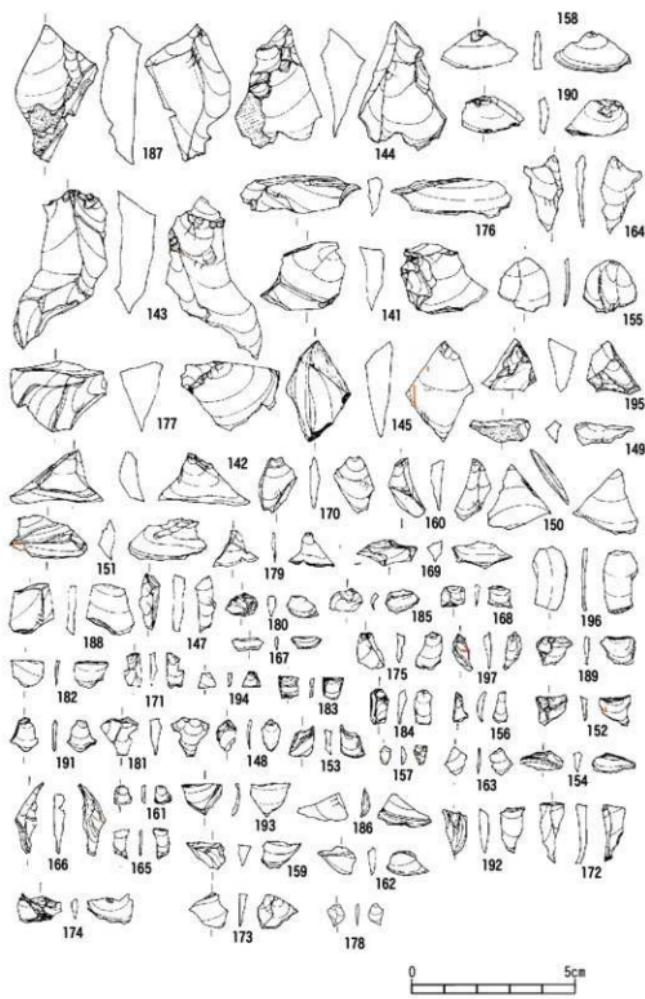
第29図 柏木遺跡 各地区出土の石器(2)



第30図 柏木遺跡 各地区出土の石器(3)



第31図 柏木遺跡 土壌1出土石器(1)



第32図 柏木遺跡 土壌1出土石器(2)

---

多賀城市文化財調査報告書第69集

志引遺跡・柏木遺跡B地区

旧石器検証調査報告書

平成15年3月28日 発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター

〒985-0873

多賀城市中央二丁目27番1号

電話 (022) 368-0134

発行 多賀城市教育委員会

〒985-8531

多賀城市中央二丁目1番1号

電話 (022) 368-1141

印刷 今野印刷株式会社

〒984-0011

仙台市若林区六丁の目西町2-10

電話 (022) 288-6123

---

